

**家庭ごみ処理費適正負担調査等  
報告書**

令和2年（2020）年2月

**瀬戸市**



# 目次

調査目的と内容 .....	1
第1章 調査の目的 .....	1
第2章 調査の内容 .....	1
(1) 市民説明会の開催 .....	1
(2) アンケート調査の実施 .....	1
(3) 報告書作成 .....	2
第1編 市民説明会の開催結果 .....	3
第1章 説明会の開催概要 .....	3
(1) 開催目的 .....	3
(2) 開催概要 .....	3
第2章 開催結果 .....	5
原山公民館 .....	5
西陵地域交流センター .....	8
陶原公民館 .....	10
品野台地域交流センター .....	12
道泉地域交流センター .....	14
效範公民館 .....	16
新郷地域交流センター .....	19
祖母懐公民館 .....	21
第2編 アンケート調査結果 .....	25
第1章 調査の概要 .....	25
(1) 調査の目的 .....	25
(2) 調査の概要 .....	25
(3) 報告書の見方 .....	25
第2章 調査結果 .....	26
2-1 回答者のプロフィール .....	26
(1) 性別・年齢 .....	26
(2) 家族の人数 .....	27
(3) 家族構成 .....	29

(4) 乳幼児の有無 .....	30
(5) 住宅の種類 .....	31
(6) 居住地区 .....	32
2-2 ごみ処理についての関心 .....	34
(1) ごみ問題についての関心 .....	34
(2) ごみ袋の購入、ごみ出しについて .....	38
(3) ごみ出し量 .....	40
2-3 ごみ処理費の有料化について .....	42
(1) ごみ処理費有料化についての考え方 .....	42
(2) 負担して良いと思う金額 .....	46
2-4 これからの取組みについて .....	50
(1) 家庭でのごみの減量の取組み方 .....	50
(2) 減量化とともに行うべき取組み .....	52
2-5 自由記入意見 .....	55
2-6 まとめ .....	56
(1) ごみ問題への関心と有料化について .....	56
(2) まとめの考察 .....	56

## 【別 冊】

### 参考資料

- 1. 説明会資料
- 2. アンケート調査票
- 3. 回答結果の有意差検定
- 4. 単純集計結果表
- 5. 自由記入意見リスト

# 調査目的と内容

## 第1章 調査の目的

瀬戸市では、一般廃棄物処理基本計画（平成26年度～35年度）において、基本方針のひとつとして「意識改革・協働～ごみ問題は「自分ごと」」を掲げ、これを実現するための施策のひとつとして「家庭系ごみの適正負担の検討」を設定しています。平成31年2月に、家庭系ごみの適正負担の検討について、瀬戸市環境衛生審議会に諮問を行いました。これらを受けて、本調査は家庭系ごみ処理費の適正負担検討に向け、市民の意見を把握するために実施するものです。

このため、市民説明会等で市民にごみ処理の現状（処理量や処理費用等）やごみ減量方法を伝達するとともに、家庭系ごみ処理費の適正負担について意見を得ました。さらに、説明会終了後にアンケート調査を実施して、これらを分析することにより市民の意識を把握し、家庭系ごみ処理費の適正負担に向けた検討をするための基礎資料を作成することを目的としました。

## 第2章 調査の内容

### （1）市民説明会の開催

#### ①市民説明会のプログラム検討、資料の作成

瀬戸市のごみ処理の現状（ごみ量、費用等）や課題、ごみ減量方法を示した配布資料、説明用パワーポイントを作成して、説明会に用いました。

なお、説明の最後に、アンケート調査票を配布して回答を得ました。

#### ②開催結果の整理

8つの会場ごとに開催した市民説明会について、質疑応答を中心として会議録を作成しました。

### （2）アンケート調査の実施

市民を対象としたアンケート調査を実施し、分析を行いました。

- ・市民説明会などの参加者を対象として当日配布・回収
- ・瀬戸市内在住の満20歳以上の男女への郵送配布・回収

### ①アンケート調査票等企画・設計

設問は9問、回答は主に選択式として、ごみ処理についての関心、ごみ処理費の有料化に関する意見、ごみ処理費の有料化以降の家庭での減量の意向や必要な施策について回答を得ました。

### ②調査票郵送配布・回収

郵送による調査については、角2サイズの封筒にアンケート調査票とともに、返送用封筒、啓発パンフレットを同封して、令和元年11月6日に郵送により配布・回収しました。

### ③集計・分析

回答内容についてチェックして、入力を行い、集計・分析を行いました。

## (3) 報告書作成

市民説明会における意見の整理、アンケート調査結果について集計・分析を行い、本報告書をまとめました。

# 第1編 市民説明会の開催結果

## 第1章 説明会の開催概要

### (1) 開催目的

市民説明会は、「ごみ非常事態宣言！ 我が家のごみ、みんなでチェック」というキャッチコピーで、本市のごみの現状や課題などを説明するとともに、ごみ減量のために市民ができることを考えてもらうため、開催しました。

このため、市がパワーポイントを映写して説明するとともに、説明の合間に10人程度までのグループで意見交換を行ったり、説明終了後に全体で意見交換を行い、最後に会場で「家庭ごみの処理費の有料化に関するアンケート調査」に回答をいただきました。

### (2) 開催概要

#### ①説明会の内容

- 市のごみ施策
- ごみ量の推移
- ごみ処理に係る費用
- ごみ減量のための方法
  - ・食品ロス削減
  - ・ミックスペーパー分別
  - ・ごみ処理費有料化の検討
- アンケートのお願い
- 質疑応答

#### ②配布資料

- 説明資料（パワーポイント打出し）：参考資料参照
- 愛知県「きちんと、ごちそうさま」が明日のエコになる。ーへらそう、なくそう、食品ロスー
- 瀬戸市「広報せと8月1日号折込み ごみ減量啓発チラシ」：参考資料参照
- 家庭ごみ処理費の有料化に関するアンケート調査票（当日回収）

**③日時・場所等**

午後7時30分から1時間程度開催しました。

参加者募集は連区自治会、ホームページ、チラシ配布等にて行いました。

日程	会場	参加者数
10月1日(火)	原山公民館	26人
10月2日(水)	西陵地域交流センター	16人
10月4日(金)	陶原公民館	24人
10月8日(火)	品野台地域交流センター	38人
10月10日(木)	道泉地域交流センター	31人
10月16日(水)	效範公民館	15人
10月21日(月)	新郷地域交流センター	19人
10月23日(水)	祖母懐公民館	43人



## 第2章 開催結果

各会場において、参加者全体での質疑応答内容と、グループでの意見交換（ごみ非常事態宣言とはどういうことか、減量化のためにどうしたら良いか）で出た内容（「その他の意見について」）をまとめました。

### 原山公民館

（質問）

- ・ごみ袋代は材料費と流通コストという説明であったが、処理費も一部負担していて、有料化は既に行われているのではないかと。指定ごみ袋で出さないと回収されない。

（回答）

- ・販売店によって若干違うが、燃えるごみ大の45リットルの袋の製造・流通コストで120円となる。
- ・ごみ出しのルールと処理費の負担のことは切り離して考えている。ルールを守って出していただかないと、回収しない。現状では粗大ごみは1点840円で処理費をいただいているが、燃えるごみのごみ処理費はいただいている。

（質問）

- ・尾張旭市、長久手市との比較は、もう少し分析が必要である。市民1人当たりが出しているごみの量に差が大きい。家庭からのごみの出し方など分析を行い問題は何かを市民が捉えた上で、努力するべきではないか。
- ・瀬戸市民はぜいたくに生活していると思えないので、他市町村とごみについても少し差があると思う。

（回答）

- ・尾張旭市と長久手市に聞いたが、ルールに特に大きな差はない。
- ・異なることは、容器包装プラスチックについては、尾張旭市と長久手市では専用の袋を市民が買って入れてもらい週1回収集していることである。
- ・燃えるごみの中にもったいないごみ、資源として使えるごみがあり、また、減量のためのアイデアを集めて施策を進めているが、市民に十分知られていない。

（質問）

- ・瀬戸市としては有料化する必要があるとはっきり告知してほしい。それによって、市民の考え方も異なってくる。

（回答）

- ・早急に有料化するのではなく、この説明会を市内で行うことと合わせて、11月に市民アンケートを実施して、市民の考えを把握した上で、環境衛生審議会などに諮り、

有料化についての検討材料を得ていく。

- ・人口が減少しているが、ごみの量が減り止まっており、税収も乏しいので、ごみ処理費の負担の検討と合わせて減量化の方法を市民に発信していく。

(質問)

- ・有料化について、いつどのように行うのか、考えがあるのか。

(回答)

- ・説明会やアンケート調査の結果などを踏まえて、袋の価格や実施時期について検討を行う。

(質問)

- ・処理費の有料化のためにゴミ袋の価格を上げるということであるが、袋の価格を上げるのではなく他の方法で料金を取ることはできないか。

(回答)

- ・袋の値上げというよりは、袋の値段に処理費を課金するような上乗せする方法が全国的に行われている。

(質問)

- ・処理費の有料化の説明が分かりにくく、処理費に使っている税金分など、額のベースで説明してほしい。

(回答)

- ・45リットルの袋に入ったごみを処理するには、10袋で1,050円になる。

(質問)

- ・ミックスペーパーで良い物と含めない物について分かりにくく、過去に収集していた雑紙とはどのように異なるのか。
- ・ミックスペーパーの収集について、市民に知っていただくことが重要である。

(回答)

- ・金属、プラスチックなどが付いている紙は分けていただいていたが、リサイクル技術が向上したため、平成29年からミックスペーパー収集することとした。

(質問)

- ・有料化したいとのことであるが、ごみの量は現状維持の量である。どれだけ家庭ごみを減らせば有料化しなくてもよいのか、現状維持や15%減らすのみでは難しいと思う。
- ・もっとみんなで考えるようにするべきであり、有料化しないためには、ごみの出し方をこうしてくださいと、はっきりと数値を出すべきではないか。

(回答)

- ・他市町村でもごみの減量目標を掲げているが、有料化する基準は一定ではない。処理費を全て負担いただくのではなく一部を負担いただき、ごみを減量化することや、有料化を行うまでの期間を考慮する。

(質問)

- ・尾張旭市、長久手市と連携して検討を行っているのか。尾張旭市では有料化の話はない。瀬戸市は市民から処理費をもらうことにするためには、条例化が必要になるではないか。

(回答)

- ・尾張旭市、長久手市とは話をしていない。条例化については必要である。

◆その他の意見など

(ごみ処理全体・ごみ問題について)

- ・分別が進んでいない。それは行政の怠慢である。

(ごみ出しの実態について)

- ・外国人住民のごみ出しマナーが悪く、出されたごみの分別のやり直しをしており大変である。

(これからの課題・方策について)

- ・市の啓発がとにかく足りない。伝わらない。見たことがない。
- ・外国人にごみ出しマナーのための外国語表記のパンフレットを広める必要がある。



## 西陵地域交流センター

(質問)

- ・1世帯当たり年間ごみ処理費が16,922円との説明であったが、世帯人数によってばらつきがあるので、1人当たりの方が分かりやすい。

(回答)

- ・先ほどの数値を13万人で割って1人当たりになると8千円程度になる。

(質問)

- ・長久手と尾張旭の1人当たりのごみ量は、若年層、ごみを出さない世帯が多い地域は減るため、世帯の状況ごとに瀬戸市とあまり変わらないと思う。瀬戸は高齢化が進んでいる。単純な比較ではなく、よく調べていただくと助かる。

(回答)

- ・いろいろな関連から分析をして、瀬戸市の特有性を見ることができればよいと考えている。

(質問)

- ・かつてコンポストの補助金があったがなくなった。なぜ廃止したのか、知りたい。

(回答)

- ・かなり前からコンポストの補助はやっていない。おそらく、コンポストのニーズが減ってきたことと、電動の生ごみ処理機、ぼかしなど、いろいろな手法が増えたため補助をやめたと思われる。

### ◆その他会場意見など

(ごみ処理全体・ごみ問題について)

- ・ごみ出しマナーがとにかく悪い。市(委託業者)は何でも収集しすぎ。
- ・プラスチックごみが問題となっている。瀬戸市でもポイ捨てが散見される。

(ごみ出しの実態について)

- ・紙はシュレッダーにかけると燃えるごみ。どうしてもミックスペーパーで出すことに抵抗があるものもある。
- ・今まで紙ごみとして燃えるごみに出していた。説明会で初めて知った。
- ・ごみ袋を使う量については、高齢の夫婦2人と4人家族で大きく異なる。

(これからの課題・方策について)

- ・東南アジア系の外国人が増えている。タガログ語、ビルマ語など外国語での説明を増やすべき。

- ・資源の民間コンテナのようなものを市でも設置して、そこに啓発看板を設置。
- ・自身は今でもコンポストを使用し、畑で肥料としている。生ごみは一切出していない。それぞれの家庭で取り組んでいることはあるはず。それを情報収集して広報してほしい。
- ・ミックスペーパーのことは知らなかった。チャレンジしてみたい。
- ・瀬戸市には広い住宅が多く、高齢者が住む住宅でも庭木などを切って捨てることにより、ごみ袋が満杯になっている。



## 陶原公民館

(瀬戸市環境衛生審議会議長 小林敬幸先生コメント)

- ・瀬戸市環境衛生審議会議長を務めてこの5年間ぐらいであるが、ごみが減らないため焦っている。市民から環境課に文句を出すことはお門違いである。ごみの問題は市民一人ひとりの問題であり、自分達で考えることが一番大事である。
- ・研究室で市民から出されたごみ袋に何が入っているのか、年に1回、学生とごみ減量推進会議メンバーと可燃ごみ100袋、不燃ごみ50袋について開けて調べている。大変な作業である。
- ・最初とても感動したのは、ペットボトルがほとんど入っておらず、高いモラルの地域と感じた。ごみ減量は何とかなると感じたが、数年は減ったもののその後、減らなかった。
- ・減らせるごみは紙であり、リサイクルできる紙が全体のごみ量の10%である。減らせるごみは全体の2割程度あり、みなさんできることはいっぱいある。
- ・減らしたら何か良いことはないかといつも考えてきた。誰もほめてくれないし、税金は減らない。ごみの有料化は、実質増税である。ごみを減らしたら、減った分のコストの5%でも良いので、たとえば図書館の本を買うということをしたらどうか。こうした意見をどんどん市に出していただいて、みなさんでごみを減らすという動きをぜひつくるべきである。みなさんの行動を良い方向に向けてほしい。
- ・生ごみの水を絞ってくださいということが、少しでも減量になる。ペットボトルのキャップ1個は7グラムの水が入る。一人それを200グラムぐらい減らすだけでも効果があるので、ぜひ皆さん、ごみを減らすことが自分にとって良いことだと、自分のためにやればよいと進めていただきたい。



◆その他の意見など

(ごみ処理・ごみ問題について)

- ・説明資料について、組成調査の内容や内部をもっと細かく示してほしい。食品ロスやミックスペーパー以外でも、ごみを減らす余地があるかもしれないので。

(ごみ出しの実態について)

- ・生ごみ（調理くず）は肥料にする。減量しようと思いつつ、料理はしない。

(これからの課題・方策について)

- ・資源コンテナを設置し、より出しやすい環境を作ってほしい。
- ・地域の衛生委員が機能していない（いちばん楽な仕事）。昔はごみ置き場の巡回などを行いごみ出しマナーが良かった。ごみの分別ボランティアなどに形を変えてはどうか。
- ・生ごみのリサイクルを市で行ってほしい。
- ・ごみを減量するためには、仕掛けと躰。行政がしっかりとした分別ルールを構築して、それを市民に丁寧に啓発しないとごみは減らない。
- ・有料化による市民のメリットも必要。
- ・不法投棄が増加する。

## 品野台地域交流センター

(質問)

- お金がかかるということで市民に負担をお願いしたいということは分かるが、いろんな予算を削ることを考えることもできるのではないか。広報せとが月2回、戸別配布されているが、見ない人もいるので、戸別別配布をやめて回覧等でもかまわない人もいないではないか。広報せとは印刷代などで1年間いくらかかっているのか。

(回答)

- 広報についての詳しい数値は手元にはないが、それなりのコストがかかっている。瀬戸市の税収自体も減ってきている中で、今やっている事業をそのまま続けるのは厳しい状態である。それぞれの担当課が今までのサービスが出来なくなる可能性もあるので、事業を精査している。まずはごみの減量化をしていただいて、なるべく有料化に向かないようにしたいと思っている中で、それでも減らない場合には有料化ということで、すぐ有料化するというわけではない。市民として、市として何ができるのか、全体の事業の中で考えていきたい。

(質問)

- 家庭のごみを減らすことは大事であるが、晴丘ではタンスの良い物、新品の茶碗を割っている。これは無駄であり何とかできないか。再利用できる施設を市として考える必要がある。体育館で廃品回収に出たものを並べて、欲しい人に引き取っていただくことも考えてもよい。

(回答)

- 粗大ごみとして出される家具、自転車、まだ使えるものがあり、修理して、再利用している市民の皆さんに提供している例もある。以前、瀬戸市でも修理した自転車をリユース品として市民に提供していたが、行政でやりすぎると民業圧迫することにもなりかねない。清掃工場に持ち込まれた家具をチェックして使えるものを修理するには晴丘はスペースがなく難しいが、将来建替える時に検討できればと思う。

(補足意見)

- 廃棄物処理会社に勤めていて、ごみ減量委員にも参加している。草については、刃で砕いて減量にすることができるが、燃料の需要が変わりお請けできない。東濃地域では草や木を砕いて市民に配るリサイクルした試みもある。そういった情報も瀬戸市に提供しており、瀬戸市に貢献できる方法を考えていきたい。

### ◆その他の意見など

(ごみ処理全体・ごみ問題について)

- 瀬戸市は他市と比べて分別が楽なので、他市の人が瀬戸市に捨てていると考えられる。
- 地域は農地や空き地が多いため、ごみがポイ捨てされている。
- 収集業者が燃えるごみで出されたものは何でも持って行ってしまっているのではな



いか。

(ごみ出しの実態について)

- ・大学生がペットボトルを捨てたり、トラックの運転手が弁当のごみを捨てており、マナーが悪い。
- ・若者のごみ出しマナーが悪い。
- ・ミックスペーパーの取扱いについて周知が足りていない。
- ・ごみ有料化には既に実施されていると思っていた。(120円の中に)

(これからの課題・方策について)

- ・市民にいかに関心を持ってもらうかが、カギ。伝えるツールを多く活用する。
- ・ごみを減らすのは分別をしっかりする必要がある。市のごみ出しについてのパンフレットなどは全戸配布を行っても読まれていない。ミックスペーパーについても市民に啓発する努力をしてほしい。
- ・ペットボトルの収集場所は、便利な場所にあるとよい。
- ・ミックスペーパー等の資源ごみについて、委託料(出費)と売払(収入)の金額を市民に公表してみたらどうか。
- ・有料化を進めると、ごみのポイ捨てが増えるのではないか。
- ・減量の方法を市民に聞くのではなく、まず役所が実践すべき。事業系ごみの処理費もかかるのだから、役所でミックスペーパーを徹底し、どの程度コスト削減できたのか併せて説明すること。
- ・アメも与えなくてはダメ。減量を頑張った人には、商品券を渡すなど考えて欲しい。



## 道泉地域交流センター

(質問)

- ・資料の中で、瀬戸市、長久手市、尾張旭市の1人当たりのごみ量の違いが出ていたが、その内容の分析は。重量がなぜ2割近く違うのか。

(回答)

- ・結果として瀬戸市が1人当たり出すごみの量が出ているが、原因の一つは容器包装のプラスチックを瀬戸市は燃えるごみとしているが、尾張旭、長久手は分別している。

(質問)

- ・容器包装プラスチックについては、瀬戸市は分別する予定はないのか。

(回答)

- ・今のところは予定がない。分別するか検討したが、たとえば週に1回収する場合、年間収集運搬するのみでコストが1億円ぐらいかかる。分別したものをリサイクルできる工場は市内になく、運ぶ必要がある。さらに、全て分別してもらったものに汚れた物が混じっているとリサイクルができないため晴丘で燃やす必要がある。
- ・容器包装プラスチックは重量が軽くて減量効果があまりない。燃えるごみは燃やすと14%ぐらい灰が残り、北丘町の最終処分場で処理しているが、次の最終処分場の候補地が難しい。容器プラスチックは燃やすとほとんど灰にはならないので、最終処分場に影響は少ない。

(小林敬幸先生コメント)

- ・今年で6年目となるが、瀬戸市環境衛生審議会議長を務めている。6年前から見ると、瀬戸市のごみはほとんど減っておらず、処理に結構お金がかかっているので、何とかしたい。ごみは出せば関係ないという気持ちで、平気に出しているかもしれないが、ごみ処理については皆さんのふところに直接影響がある。
- ・ノットインマイバックヤード、私の裏庭に捨てないでくださいという言葉があるが、皆さん一人一人が減らさないとごみは減らない。すると、家庭ごみ処理費の有料化に進むかもしれないが、有料化はしたくないのでみなさんをお願いしている。
- ・たとえばペットボトルキャップ1杯は7グラムであるが、それを数杯なら減らせる。ペットボトルは踏んで出すと、体積は3分の1になるので、収集コストは3分の1になる。これは皆さんできることである。そういう皆さんの行動がごみを減らす第一歩となる。ぜひ皆さんのご協力をお願いしたい。

### ◆その他の意見

(ごみ処理全体・ごみ問題について)

- ・晴丘では余熱の利用を行っているのか。
- ・豊田市では雑紙などの回収ボックスが各地域のセンターに設置されており、そこに

運んで入れるだけで簡単に出すことができる。

- ・燃えるごみの中には、プラスチックごみが多いのではないかと。豊田市では、プラスチックを分別して出す。

(ごみ出しの実態について)

- ・瀬戸はごみ出しのマナーが悪い。分別の種類が少ないと、何でも燃えるごみに入れて良いと考える人が増えると感じる。

(これからの課題・方策について)

- ・ごみを減らすためには、箱や容器を買うのではなく、中身のみを買う生活意識を高める必要がある。
- ・お菓子の箱など紙で出来ているので、燃えるごみとして出している人が多い。「燃えるごみ」ではなく「燃やすごみ」に名称変更してはどうか。
- ・ごみ袋の値段と袋の量がリンクして、量が増えれば値段が高くなるようなしくみがあるとよいのではないかと。
- ・新聞やミックスペーパーを縛るヒモなども「ごみ」になるのでは。そうであれば縛らなくても出せる出し方を検討した方がよいと思う。
- ・ごみ袋にポイントシールなどを付けて、頑張った人には報酬を出すなど考えた方がよい。
- ・ミックスペーパーの取組みについてもっと啓発すべき。
- ・行政はPRがへたである。もっとPRすれば実践してもらえる。
- ・広報やごみの出し方のパンフなどはあまり見てもらえない。将来的にはアプリなどの電子ツールを充実させるべきである。



## 效範公民館

(質問)

- ・各中学校区で説明会をやることは良いことである。ただし、ごみ非常事態宣言という言葉にひっかかる。なぜかという、今の環境部ではそういう話かもしれないが、市長からこういうことが起こっているので頼むよという話があつてしかるべきであるがない。議会でも議論がされていない。
- ・市全体が晴丘の建替えに 52 億円、建替え中によそにごみを出すためにお金を払う必要があるということで、市としてトップから号令、市民にちょっとお願いしますということが本当にあつてしかるべきであるが、できていない。
- ・上層部の人に必要ということ伝えてほしい。

(回答)

- ・内部の組織として、市の幹部にごみの現状、晴丘に関する事実を伝えながら、市民の皆さんの声を直接聞いた上で、一般市民をランダム抽出するアンケートを行って行って、最終的に場合によっては一部有料化を導入するためには議会にも説明、市長からのメッセージもいただく機会が出てくる。

### ◆その他の意見

(ごみ処理全体・ごみ問題について)

- ・ミックスペーパーの出し方について、今日初めて知った。資源ごみの出し方として市民に示しているのか。
- ・ミックスペーパーの分別は意識がある人はやっている。
- ・瀬戸市の1人当たりのごみ排出量が多いが、長久手市と尾張旭市はなぜ少ないのか。
- ・瀬戸市はごみとしてプラスチックなど何を混ぜても燃やしてくれる。
- ・瀬戸市は何でも燃やしてくれる、収集してくれるというのは、近隣市町では有名なので、わざわざ瀬戸市のごみ袋を買って出しに来るといった話を聞いた。
- ・ごみの排出量の原単位は、若者世代の多い市町村が低いと思われる。高齢世代の世帯ほど、長年の暮らしの中で溜め込まれたごみの予備軍が家の中にあり、それらが何かのきっかけでごみとして出される。
- ・ごみが減っていないのは、市民の意識が低くなっているためと思う。万博の頃はごみも含め環境意識が高かったと思うが、次第に薄れて、ごみは出せば持って行ってくれるという感覚になっている。

(ごみ出しの実態について)

- ・生ごみは庭に埋めている。
- ・カラス対策として、生ごみは新聞紙にくるんで出している。
- ・アルミ箔は晴丘の炉に悪影響を与えるので、燃えないごみにしている。



- ・学校給食では食べ残しの廃棄が多い。いろいろな食材を子ども達に食べてもらうために、ご飯の食べ残しが発生する。
- ・家では好きなご飯のおかずしか出ないので、食品廃棄は少ないかもしれないが、給食だと食べていない。食べた事がない料理には手をつけない傾向があり、そこで廃棄物がたくさん出ている。
- ・食品の食べ残しや、生木を捨てることがごみの量を増やしている。
- ・ミックスペーパーは、積極的な実践には気が引ける部分（金属やプラを付けたまま出すこと）がある。

（これからの課題・方策について）

- ・ごみ袋が1袋300円となると、詰込んで袋に入れたり、資源を捨てないようにするであろう。ごみ出しの基本を守ることが必要であるが、現状の12円は安すぎる。
- ・瀬戸市民は、何でも一緒にごみ袋に入れて出す感覚が強い。分別を徹底することが必要である。
- ・名古屋市では分別が細かいが、慣れてくると当たり前という感覚になる。
- ・ごみの問題については、市民に十分に伝わっていない。もっと市民の中に入って知恵をもらったり、話題にしてもらうべきである。
- ・上から言うのではなく、市民と同じ目線でもっと市民の中に入っていかないとだめ。
- ・ごみの有料化は受益者負担の考え方からも導入すべき。ただし、不法投棄対策も併せて実施しないとイケない。
- ・市内にもっと市民がいつでも持ち込める資源ステーションがあるとごみ減量に繋がる。
- ・刈草や剪定木は、地域ごとに集積場を設け、一定程度乾燥させて収集すれば重量が減るのではないかと。
- ・道泉連区が地域イベントとして防災運動会を実施する。ごみの減量や分別も地域のイベントの中で楽しんで学べるものとして実践すればよいのではないかと。そこに、資源を集

めて売払い収入に繋がれば、インセンティブになる。

- 有料化は中途半端な金額では減量効果が低いと思う。
- ごみ減量は特徴的な取り組みにすることにより、マスコミが取り上げて記事にすることで、市民の目にふれ、啓発の手助けとなる。

## 新郷地域交流センター

### ◆その他の意見

(ごみ処理全体・ごみ問題について)

- ・瀬戸市のごみの量が多い原因はどのようなことか。
- ・ごみについて「非常事態」という認識はない。
- ・瀬戸は分別の種類が少なく、ごみに対する意識が低い。啓蒙のためには、分別を増やすことも必要ではないか。
- ・リサイクルセンターに月に2度行くが、行く人はミックスペーパーをきちんと分別しており、意識が高い人が多い。
- ・晴丘センターを更新することが必要になるので、非常事態ということが理解できる。
- ・晴丘センターが使いなくなる。建替え工事など、お金のことが一番心配。

(ごみ出しの実態について)

- ・生ごみを出す前に絞って出す、自分の畑に埋めるなど家庭内で処理することが、減量に結び付く。
- ・生ごみを家で堆肥化を行ってきたものの、マンション住まいであり堆肥を使うことができなかった。
- ・ミックスペーパーをはじめて知った。
- ・ごみをぐちゃぐちゃに出しても収集員が回収してくれる。これは良くない。
- ・分別をできていない人が多い。収集不可シールが貼られて置いてあるのをよく見る。びん、缶、ペットボトルが入っていることが多い。

(これからの課題・方策について)

- ・ごみの減量については、主婦の方々にいかにうまくPRするのが重要である。ごみ問題や分別について、真剣に考えていない家庭が多いのではないか。
- ・レジ袋削減をもっと徹底すべきだ。薬局等だと、聞かれもせずにレジ袋をつけてくる。ごみを減らすには事業者の協力も必要。
- ・HPに掲載しているものの、見ている人の数は把握しているのか。チラシ等で組に回覧するのか。HPに掲載するのか。一番効果的な周知の方法を調べるべきだ。
- ・地域で清掃活動を行う際、ごみ袋を配布している。ごみ減量を啓発する簡易なチラシ等をもらえれば、配布するごみ袋に貼付することはできる。我々ができることは協力する。





## 祖母懐公民館

(質問)

- ・近隣の長久手、尾張旭と比較して瀬戸は1人当たりのごみは多い。市民の意識の問題なのか、他の市が何か対策をとっているためか。

(回答)

- ・尾張旭市、長久手市の担当にも聞いたが、特に瀬戸と大きく違うことはない。一つの違いは、2市では容器包装プラスチックを分別して週に1回収集しており、その差は若干出ている。
- ・何が原因なのかなかなか特定できない。瀬戸の家は古い家が多くて長く住むとごみの予備軍が増えて将来ごみになるが、尾張旭市、長久手市は平均年齢が若く、賃貸に住んで引っ越す時にごみを減らしているとも言われている。

(質問)

- ・北丘町の処分場はあとどれくらい使うことができるのか。

(回答)

- ・残りは容量ではあと30年くらいである。

(質問)

- ・ビニールシートが被せてあるが、あのシートの耐用年数はどれくらいか。

(回答)

- ・穴を掘って頑丈なビニールシートを二重に敷いている。穴が開いた時にはセンサーで分かり、汚い水が染み出ない。

(質問)

- ・北丘町が上流とするとビニールシートが劣化して雨水として流れた場合、水野川の汚染の心配はないか。

(回答)

- ・穴を掘った時にビニールシートを敷いて、そこから水を集めて排水処理を行って水野川に流している。

(質問)

- ・北丘町の処分場が一杯になった時の候補地はあるのか。

(回答)

- ・候補地は決まっていない。

(質問)

- ・小学校の草刈り、通学路の落ち葉拾いを行っており、学校のごみは山に捨てるが通学路のごみは瀬戸市のごみ袋で5袋も出る。費用がかかることになるので、知恵を貸してほしい。

(回答)

- ・各家庭で埋めるか、乾かしてごみとしていただくのみでも、ごみ量は減るという工夫がある。個別にはご相談に乗る。



◆その他の意見

(ごみ処理全体・ごみ問題について)

- ・ごみの減量は国がもっと取り組むべきであり、分別も国が基準を持って行わないと解決が難しい。たとえば、各地方から出てきた学生は、地元と大学のある町で分別が異なるため戸惑っている。
- ・ごみが増える商品販売の形態になっており、ごみはどうしても出る。生産者の責任も大きい。
- ・一人当たりのごみ量について、年代別など細分化しないと分かりづらい。みんな意識はしていると思うが、これ以上どうしていいか分からない。

(ごみ出しの実態について)

- ・燃えるごみかどうか分別することは手間がかかり、プラスチックなどは燃えるごみかどうか迷うことが多い。

(これからの課題・方策について)

- ・ポイ捨てはモラルの問題。モラルがない人が多く、そういった人に改善を求めても無理なのは。
- ・ポイ捨て、不分別などに対しては、法律を変えて厳しくするべき。
- ・有料化と不法投棄に関連があると考え。有料化の結果、不法投棄が増えてはだめ。
- ・家庭で出来る事は生ごみの水切りぐらいしかやってなかったが、ミックスペーパーで紙類が出せるのは知らなかった。これからやっていく。
- ・ごみの有料化を行うと不法投棄が増えるのではないか。現在でも、時折、よその人が集積場に捨てており、迷惑を被っている。

- ミックスペーパーの周知が足りていない。ミックスペーパー用のごみ袋を検討することを検討願いたい。
- 廃品回収が行われているが、資源ごみとして分別して出しやすいように、回収方法を工夫することが必要である。
- ごみの分別についての教育に力を入れてほしい。例えば、町内ごとに勉強会を実施するなど。
- 市民のごみに対する意識がまだまだ低い。意識を高めることができる活動を引き続き行ってほしい。
- インターネットなど、年齢が高い人は見ないし、見る機会もない。もっと他の方法で市民に知ってもらうことを考えた方がよい。



## 第2編 アンケート調査結果

### 第1章 調査の概要

#### (1) 調査の目的

本アンケート調査は、家庭ごみ処理費の適正負担について、調査・審議の際の資料とするため市民の意見を把握するものです。

なお、本アンケート調査を通じて、家庭ごみ処理費の有料化につき、導入の可否や導入する場合の制度内容の検討材料を得るために実施しました。

#### (2) 調査の概要

調査の概要は以下に示すとおりです。

##### ○調査対象および配布方法

- ・市民説明会などの参加者（説明会終了後に配布）、瀬戸市内在住の満20歳以上の男女（無作為抽出し郵送で配布）

##### ○回収結果

- ・説明会等では315人から回答を得ました。
- ・郵送では788通の有効回答を得て、回収率は46.5%に達しました。

	調査期間	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率%
説明会等の参加者（会場で配布・回収）					
市民説明会	令和元年 10月	—	202	202	—
小学校PTA	令和元年 11月・12月	—	96	96	—
せとっこファミリー 交流館利用者	令和元年 11月	—	17	17	—
郵送配布・回収 （20歳以上の市民を住 民基本台帳より無作 為抽出）	令和元年 11月6日～ 12月20日	1,696 （他無効4）	796	788 （他無効8）	46.5%
計			1,111	1,103	—

#### (3) 報告書の見方

○図中の構成比（%）は、複数回答、単数回答ともに、少数点第2位を四捨五入していますので、図中の構成比（%）を合計しても、必ずしも100.0%になりません。

○図表中の表、グラフ等の見出しおよび文章中の選択肢の表現を、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものがあります。

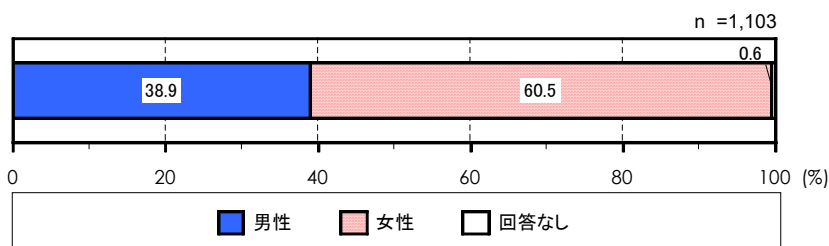
## 第2章 調査結果

### 2-1 回答者のプロフィール

#### (1) 性別・年齢

性別は、回答者 1,103 人のうち「男性」が 429 人で 38.9%、「女性」が 667 人で 60.5%と「女性」が多くなっています（図表 2-1-1）。

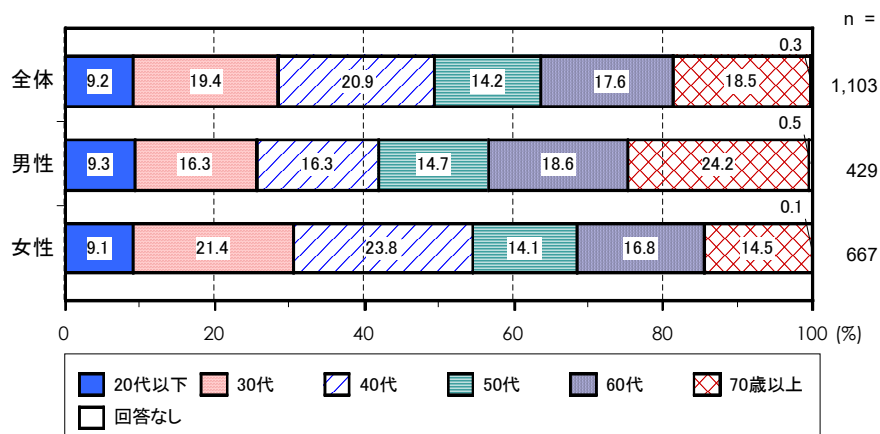
図表 2-1-1 性別



年齢をみると、「40代」が 20.9%と最も多くなっており、「30代」と「60代」、「70歳以上」がそれぞれ 20%弱となっています（図表 2-1-2）。

性別にみると、回答者の最も多い年代は、女性は 40代で 23.8%、男性では 70歳以上で 24.2%でした。

図表 2-1-2 年齢（性別）



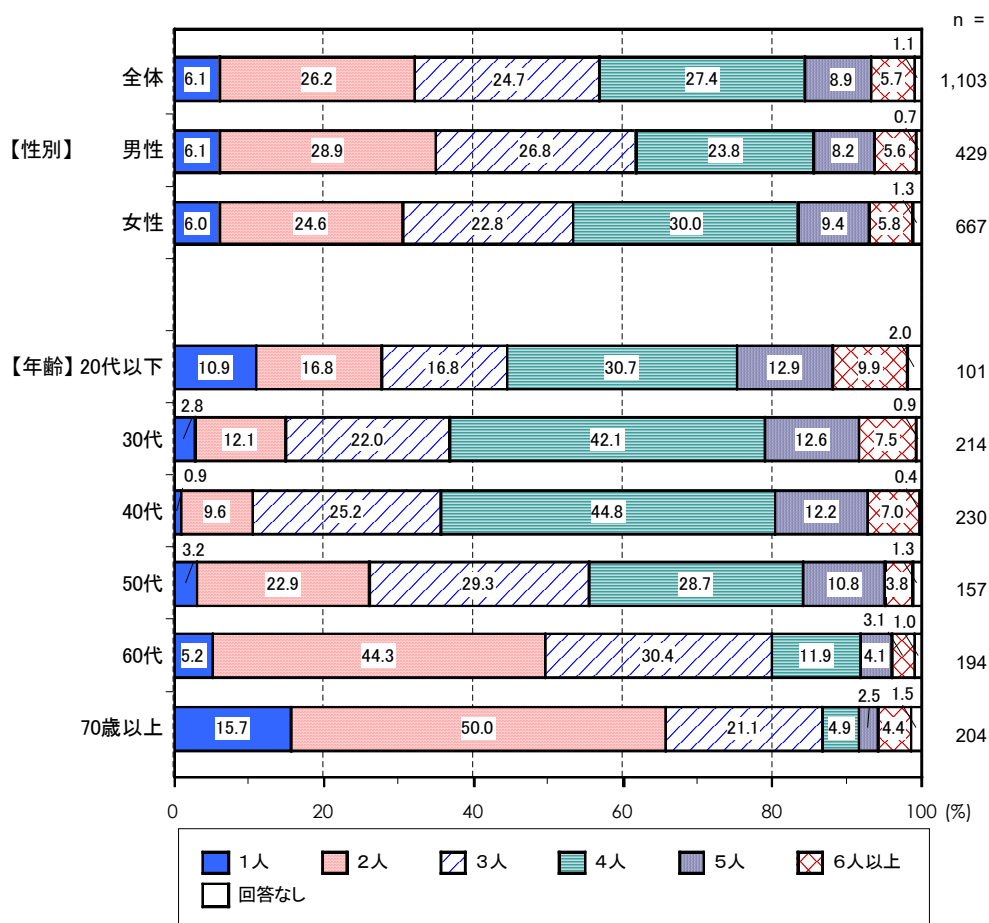
## (2) 家族の人数

本人を含む家族の人数は「4人」が27.4%で最も多く、次いで「2人」が26.2%、「3人」が24.7%となっており、これらを合わせると2～4人が80%弱を占めます(図表2-1-3)。

性別にみると、男性で「2人」(28.9%)、「3人」(26.8%)が女性より高く、女性で「4人」(30.0%)が男性より高くなっています。

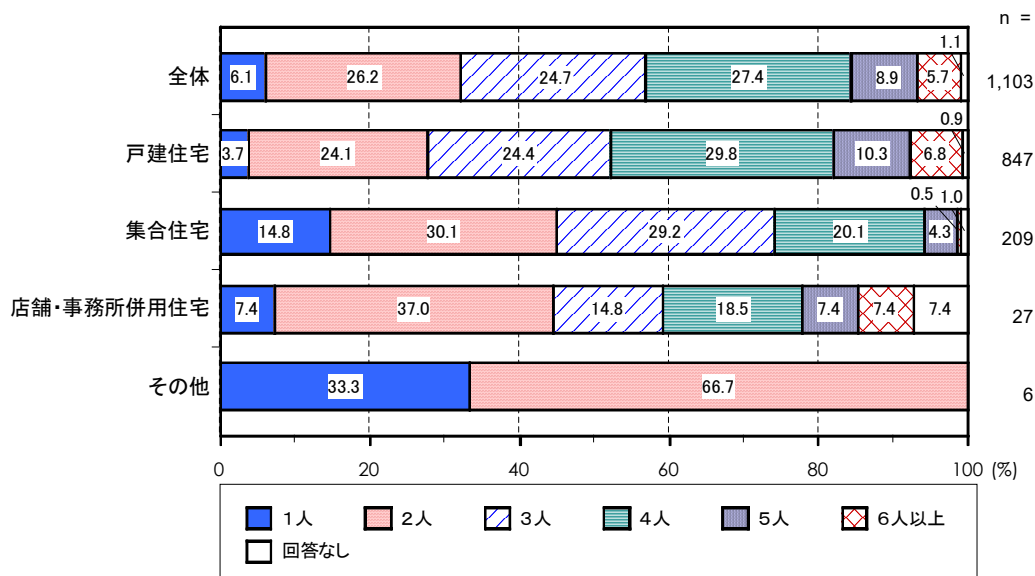
年齢別にみると、40代以下では「4人」、「5人」が高く、さらに20代では「6人以上」も高くなっています。50代と60代では「3人」(30%)、60代以上では「2人」(44%以上)が高く、70歳以上と20代以下では「1人」(10%以上)が高くなっています。

図表 2-1-3 家族の人数 (性・年齢別)



住宅の種類別にみると、3人以下が占める割合は、集合住宅で74.1%、戸建住宅で52.2%となりました（図表2-1-4）。

図表2-1-4 家族の人数（住宅の種類別）





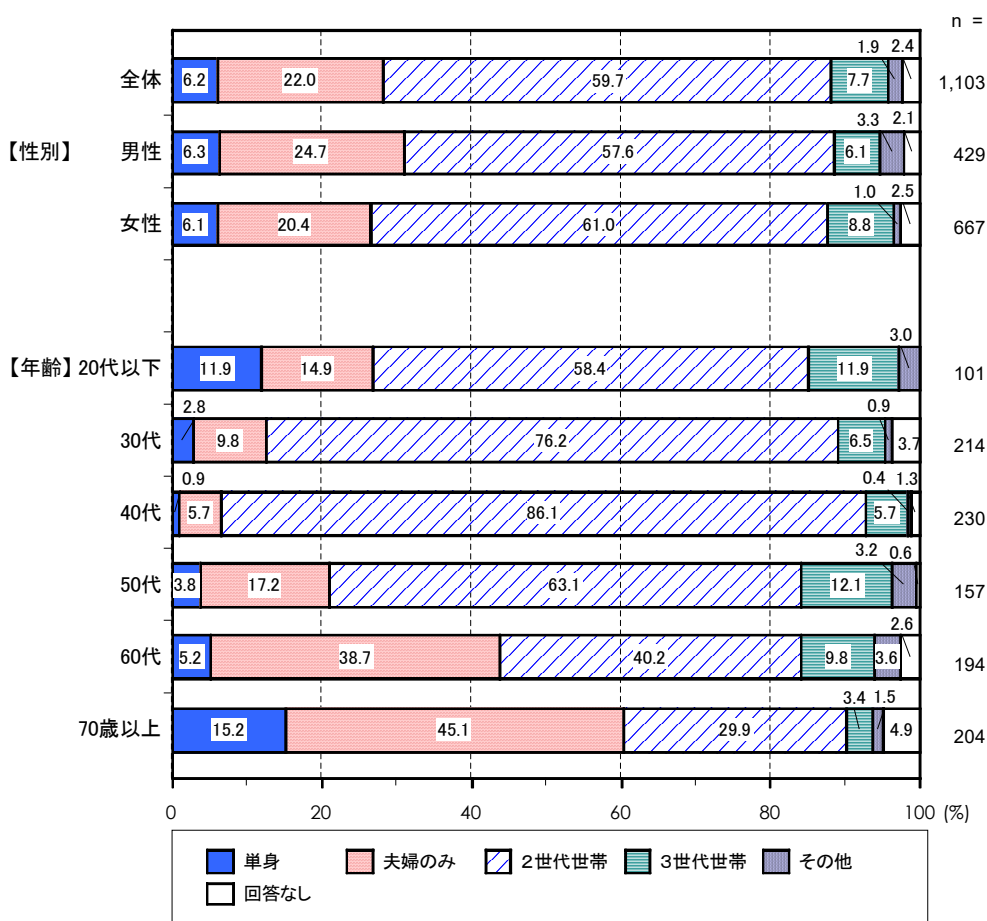
### (3) 家族構成

「2世代世帯」が59.7%と最も多く、「夫婦のみ」が22.0%、「単身」と「3世代世帯」が7%前後となっています（図表2-1-5）。

性別にみると、男性で「夫婦のみ」(24.7%)が女性より、女性で「2世代世帯」(61.0%)が男性よりやや高くなっています。

年齢別にみると、30代、40代、50代では「2世代世帯」(63%以上)が特に高く、60代以上では「夫婦のみ」(38%以上)が他の年齢層よりも高くなっています。70歳以上と20代以下では「単身」(11%以上)、20代以下と50代では「3世代世帯」(約12%)が、他の年齢層よりも高くなっています。

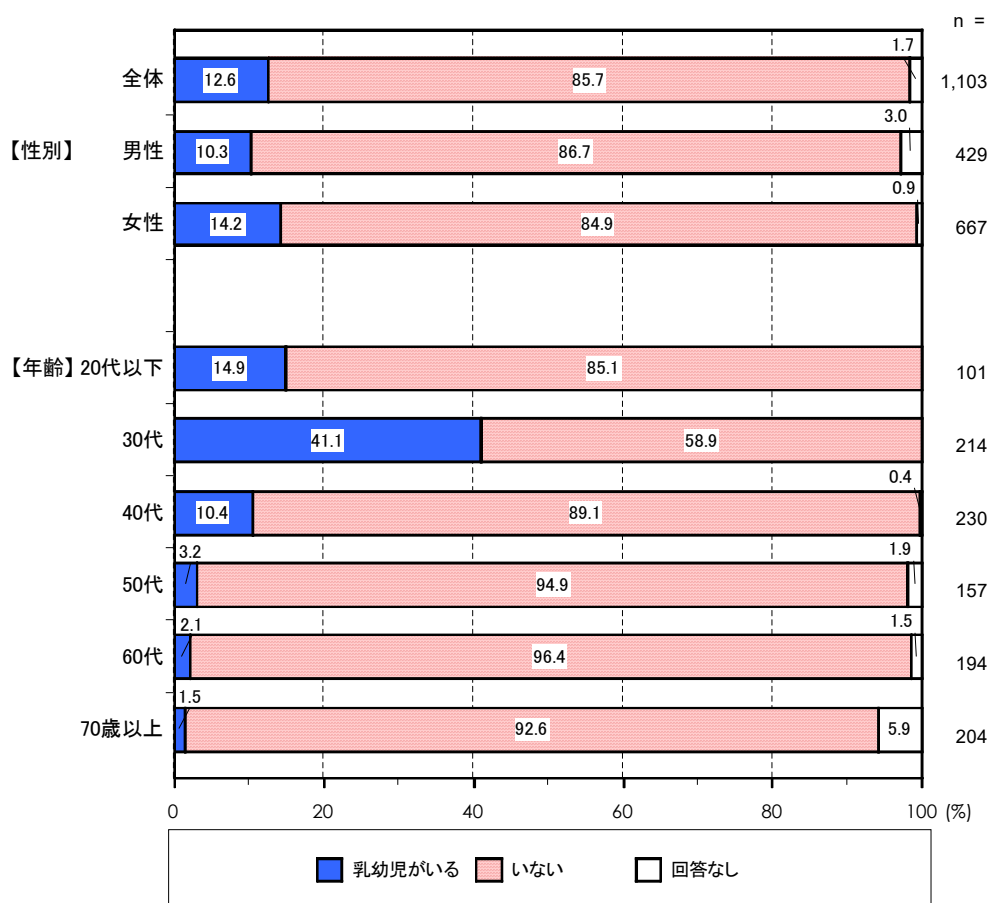
図表 2-1-5 家族構成（性・年齢別）



#### (4) 乳幼児の有無

「いる」が12.6%、「いない」が85.7%となっています（図表2-1-6）。  
 年齢別にみると、30代で「いる」が41.1%と高くなっており、20代以下（14.9%）、  
 40代（10.4%）などでも該当する回答者が見られます。

図表 2-1-6 乳幼児の有無（性・年齢別）

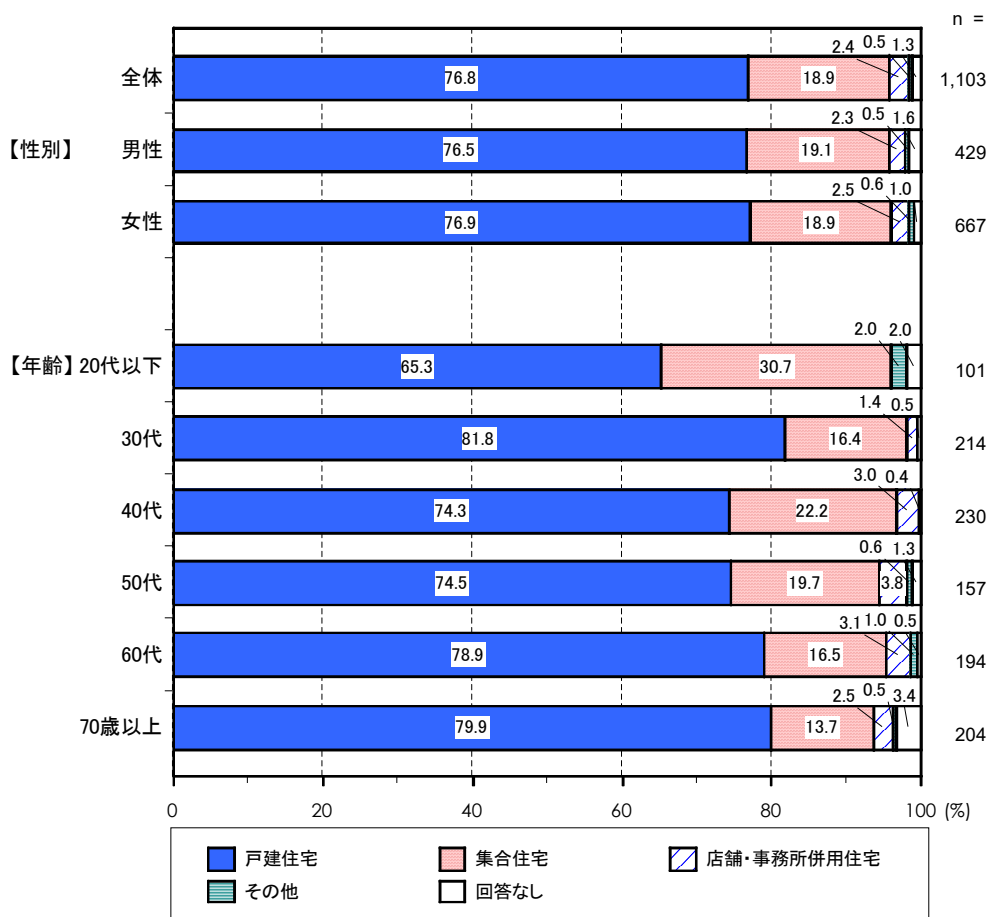


(5) 住宅の種類

「戸建住宅」が76.8%、「集合住宅」が18.9%、「店舗・事務所併用住宅」が2.4%です（図表2-1-7）。

年齢別にみると、30代と70歳以上で「戸建住宅」（約80%）が高く、20代以下と40代で「集合住宅」が他の年齢層よりも高く、20代以下では30.7%となっています。

図表2-1-7 住宅の種類（性・年齢別）



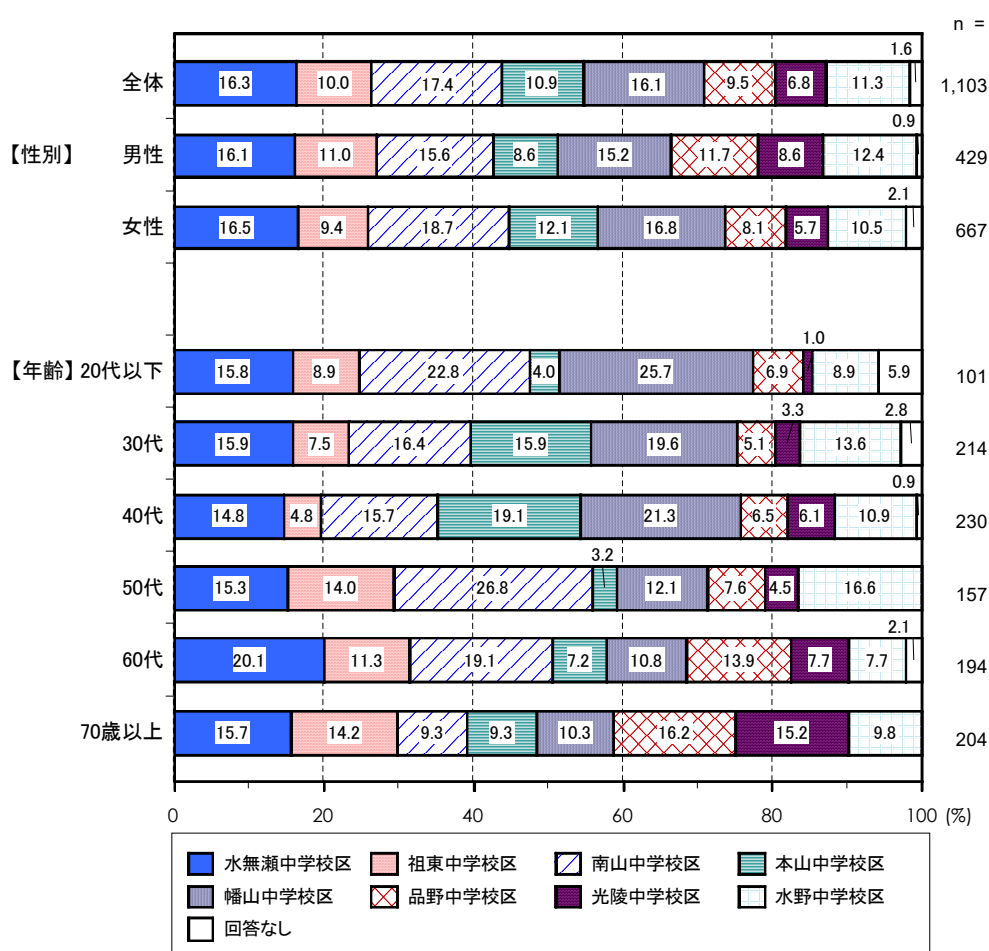
### (6) 居住地区

居住地区を8中学校区別に見ると、「南山中学校区」(17.4%)、「水無瀬中学校区」(16.3%)、「幡山中学校区」(16.1%)が多くなっています(図表2-1-8)。

性別にみると、男性で「品野中学校区」(11.7%)が女性より、女性で「本山中学校区」(12.1%)が男性よりもやや高くなっています。

年齢別にみると、40代以下で「幡山中学校区」(19%以上)、30~40代で「本山中学校区」(15%以上)、50代で「南山中学校区」(26.8%)が、他の地区よりも高くなっているなど特徴があります。

図表 2-1-8 居住地区 (性・年齢別)



### <居住地区における回答者の特性（補足）>

本調査では郵送と説明会によりアンケートを配布しており、説明会等の参加者の特性からも回答者の属性が異なっており、ひいては居住地区別の回答にも特色が出ている場合があります（図表 2-1-9）。

図表 2-1-9 性、年齢、家族構成、アンケート配布方法（居住地区別）

	合計	性別		年齢					
		男性	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70歳以上
回答者全体	1,103	38.9	60.5	9.2	19.4	20.9	14.2	17.6	18.5
水無瀬中学校区	180	38.3	61.1	8.9	18.9	18.9	13.3	21.7	17.8
祖東中学校区	110	42.7	57.3	8.2	14.5	10.0	20.0	20.0	26.4
南山中学校区	192	34.9	65.1	12.0	18.2	18.8	21.9	19.3	9.9
本山中学校区	120	30.8	67.5	3.3	28.3	36.7	4.2	11.7	15.8
幡山中学校区	178	36.5	62.9	14.6	23.6	27.5	10.7	11.8	11.8
品野中学校区	105	47.6	51.4	6.7	10.5	14.3	11.4	25.7	31.4
光陵中学校区	75	49.3	50.7	1.3	9.3	18.7	9.3	20.0	41.3
水野中学校区	125	42.4	56.0	7.2	23.2	20.0	20.8	12.0	16.0

	合計	家族構成					アンケートの配布方法	
		単身	夫婦のみ	2世代世帯	3世代世帯	その他	郵送	説明会等
回答者全体	1,103	6.2	22.0	59.7	7.7	1.9	71.4	28.6
水無瀬中学校区	180	8.9	25.6	51.1	11.7	0.6	71.1	28.9
祖東中学校区	110	5.5	25.5	50.9	10.0	4.5	61.8	38.2
南山中学校区	192	4.7	21.9	63.5	6.8	2.1	90.6	9.4
本山中学校区	120	0.8	12.5	73.3	9.2	2.5	25.8	74.2
幡山中学校区	178	6.7	15.2	68.5	4.5	2.8	80.9	19.1
品野中学校区	105	6.7	23.8	53.3	9.5	2.9	64.8	35.2
光陵中学校区	75	10.7	30.7	49.3	2.7	-	68.0	32.0
水野中学校区	125	6.4	22.4	62.4	7.2	-	87.2	12.8

（注）表側・表頭の不明は示していない。

グレーは回答者全体より5%以上高いもの

## 2-2 ごみ処理についての関心

### (1) ごみ問題についての関心

問2 あなたは、瀬戸市のごみ問題全般について関心がありますか。(〇は1つ)

#### ①回答者全体

「とても関心がある」が27.7%、「少し関心がある」が53.5%で、回答者の80%で  
ごみ問題に関心があることがわかりました。「あまり関心がない」が15.9%、「まったく  
関心がない」が2.2%で、関心がない回答者は18%です(図表2-2-1)。

#### ②性別

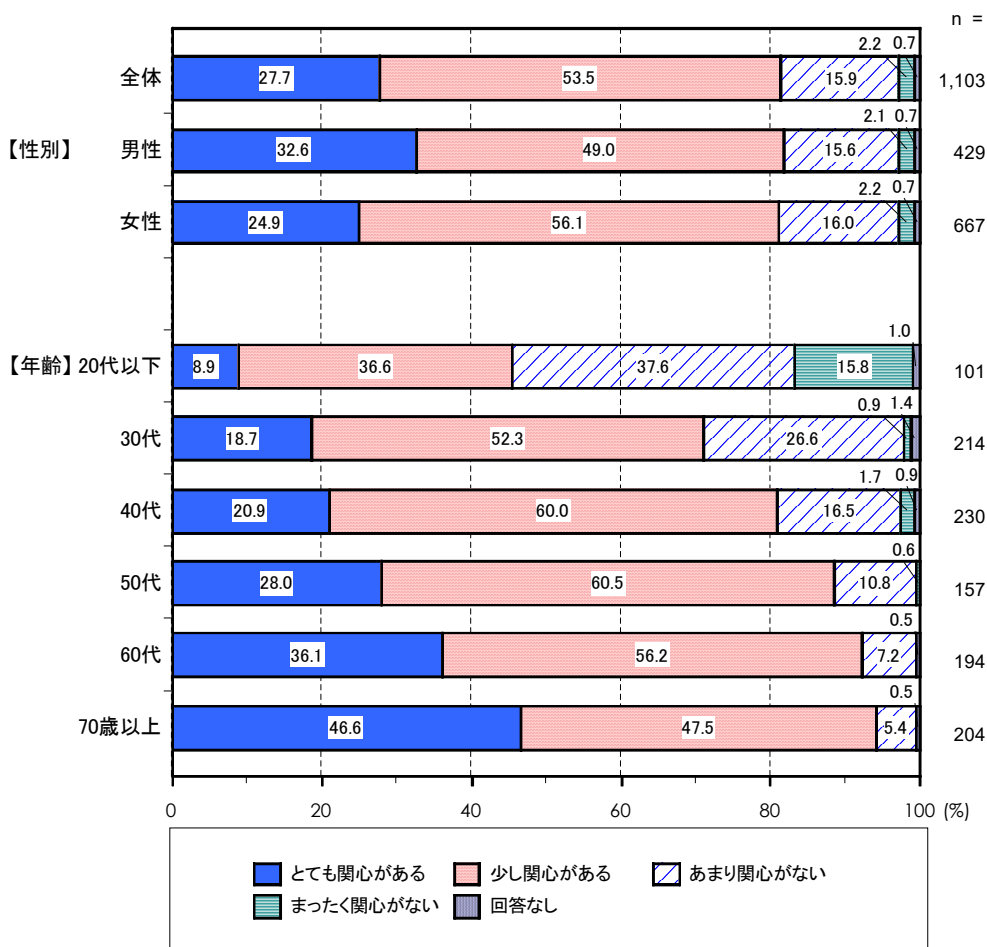
男性で「とても関心がある」(32.6%)が女性よりも高く、女性で「少し関心がある」  
(56.1%)が男性よりも高くなっています。

#### ③年齢別

年齢が上がるにしたがって「とても関心がある」が高くなる傾向があります。

20代以下では「あまり関心がない」が37.6%、「まったく関心がない」が15.8%で  
あり、他の年代と比較して関心がない回答者が多い結果となりました。

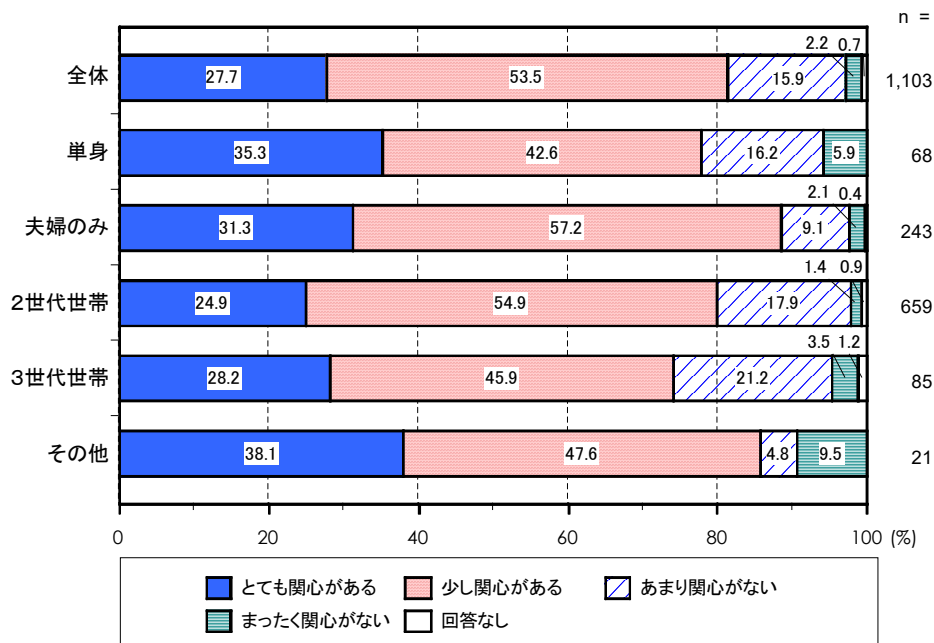
図表2-2-1 ごみ問題への関心度(性・年齢別)



#### ④家族構成別

単身世帯、夫婦のみの世帯で「とても関心がある」(31%以上)が高く、夫婦のみでは、関心がある回答者が90%弱に達しています。3世代世帯で「あまり関心がない」と「関心がない」を合わせると24.7%であり、他の世帯と比較して高くなっています(図表2-2-2)。

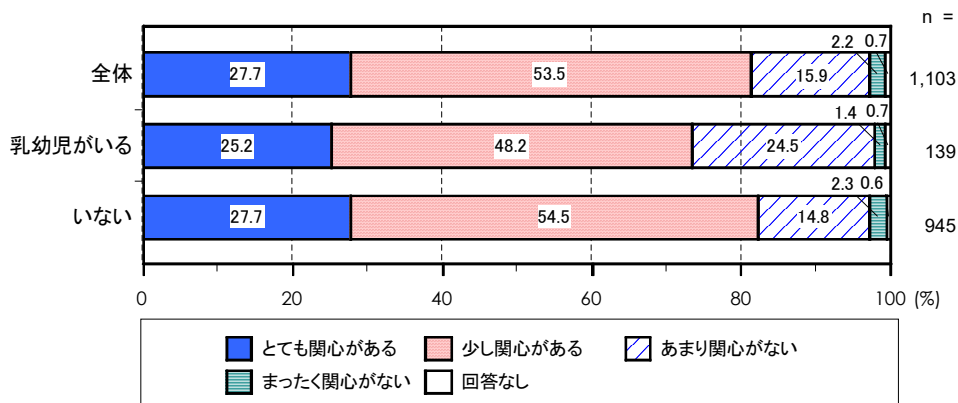
図表 2-2-2 ごみ問題への関心度(家族構成別)



#### ⑤乳幼児の有無別

乳幼児がいる回答者で、関心がある回答者は73%であり、乳幼児がいない回答者と比べて低くなっています。あわせて、関心がない回答者は26%と高くなっています(図表2-2-3)。

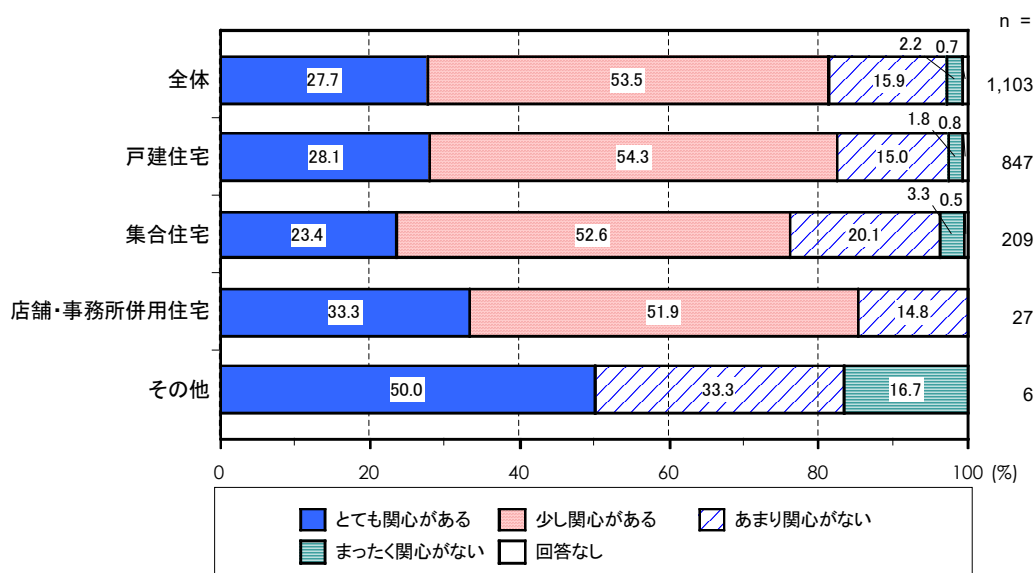
図表 2-2-3 ごみ問題への関心度(乳幼児の有無別)



### ⑥住宅の種類別

集合住宅では、関心がある回答者が76%とほかの住宅の種類回答者よりも低く、「あまり関心がない」「まったく関心がない」は23%と高くなっています（図表 2-2-4）。

図表 2-2-4 ごみ問題への関心度（住宅の種類別）



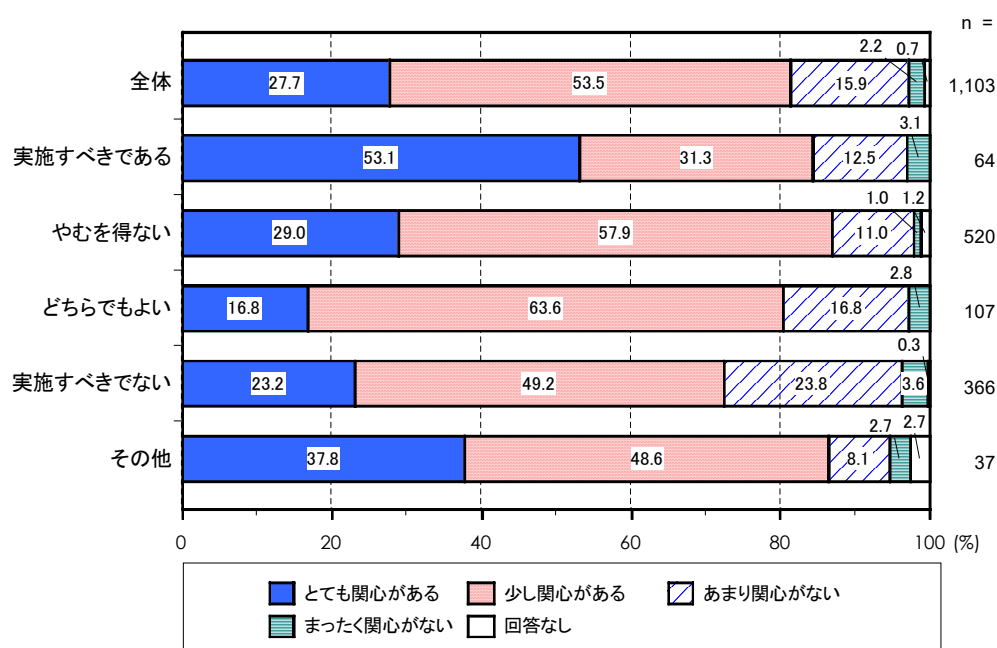


⑦ごみ処理費有料化についての考え方別

ごみ処理有料化を実施すべきであるという回答者では「とても関心がある」が53.1%と高くなっており、実施すべきである、やむを得ないという回答者でごみ問題への関心が高くなっています（図表 2-2-5）。

実施すべきではないでは、「あまり関心がない」「まったく関心がない」を合わせて27%となり、ほかの考え方の回答者よりも高くなっています。

図表 2-2-5 ごみ問題への関心度（問5 ごみ処理費有料化についての考え方別）



## (2) ごみ袋の購入、ごみ出しについて

問3 あなたは、普段、ごみ袋を買ったり、ごみ出しなどを行っていますか。(複数回答可)

## ①回答者全体

「ごみ出し用のごみ袋を買いに行っている」が79.1%、「ごみ出し用のごみ袋などに分別している」と「ごみ袋などを集積場に運んでいる」が70%弱となっています。「ほとんど行っていない」は、5.6%でありわずかです(図表2-2-6)。

## ②性別

女性で「ごみ出し用のごみ袋を買いに行っている」(90.4%)、「ごみ出し用のごみ袋などに分別している」(76.3%)が、男性を上回っています。「ごみ袋などを集積場に運んでいる」は、男性が女性よりも若干高くなっています。

## ③年齢別

20代では「ほとんど行っていない」が28.7%見られます。

30～50代では「ごみ出し用のごみ袋を買いに行っている」(83%以上)、40～60代では「ごみ出し用のごみ袋などに分別している」と「ごみ袋などを集積場に運んでいる」が70%以上と、他の年齢層よりも高くなっています。

図表2-2-6 ごみ袋の購入、ごみ出しについて(性・年齢別)

(%)

	n (人)	ごみ出し用のごみ袋を買いに行っている	ごみ出し用のごみ袋などに分別している	ごみ袋などを集積場に運んでいる	ほとんど行っていない	その他	回答なし
全体	1,103	79.1	68.4	69.5	5.6	0.5	1.0
男性	429	61.5	56.2	71.3	8.2	0.7	1.6
女性	667	90.4	76.3	68.4	3.9	0.3	0.6
回答なし	7	71.4	71.4	71.4	14.3	-	-
20代以下	101	57.4	46.5	45.5	28.7	1.0	-
30代	214	84.6	71.0	68.2	5.6	0.5	0.5
40代	230	83.5	72.6	70.4	3.9	0.9	-
50代	157	88.5	76.4	73.9	1.3	-	-
60代	194	79.9	71.6	74.7	2.6	-	2.1
70歳以上	204	71.1	63.2	73.5	2.0	0.5	2.9
回答なし	3	66.7	33.3	66.7	33.3	-	-

図表中の小数点の数字はn(回答者数)に対する割合(%)です。設問のように、選択肢から複数選んだ結果のため、図中の構成比(%)を合計すると100.0%を超えます。

## ④家族構成別

ごみは世帯単位で出しているため単身世帯のみの状況を見ると、「ごみ出し用のごみ袋を買いに行っている」が91.2%、「ごみ出し用のごみ袋などに分別している」と「ごみ袋などを集積場に運んでいる」が75%以上というように、ごみ袋を買って分別して出すことを全て行っている回答者が25%程度あることが推測できます（図表2-2-7）。

図表2-2-7 ごみ袋の購入、ごみ出しについて（家族構成別）

（%）

	n（人）	ごみ出し用のごみ袋を買いに行っている	ごみ出し用のごみ袋などに分別している	ごみ袋などを集積場に運んでいる	ほとんど行っていない	その他	回答なし
全体	1,103	79.1	68.4	69.5	5.6	0.5	1.0
単身（1人）	68	91.2	75.0	77.9	1.5	-	1.5
夫婦のみ（2人）	243	79.4	72.0	74.9	0.4	0.4	1.6
2世代世帯（親と子）	659	78.8	69.0	69.2	6.5	0.6	0.3
3世代世帯	85	68.2	55.3	49.4	17.6	-	3.5
その他	21	90.5	61.9	85.7	-	-	-
回答なし	27	77.8	51.9	59.3	7.4	-	3.7

(3) ごみ出し量

問4 瀬戸市では、燃えるごみの収集を週2回行っていますが、燃えるごみの日は、平均して何袋のごみを出していますか。(〇は1つ)

①回答者全体

「1袋未満」が14.7%、「1袋」が55.8%と最も多く、「2袋」が25.2%で、95%以上の回答者が2袋までとなっています(図表2-2-8)。

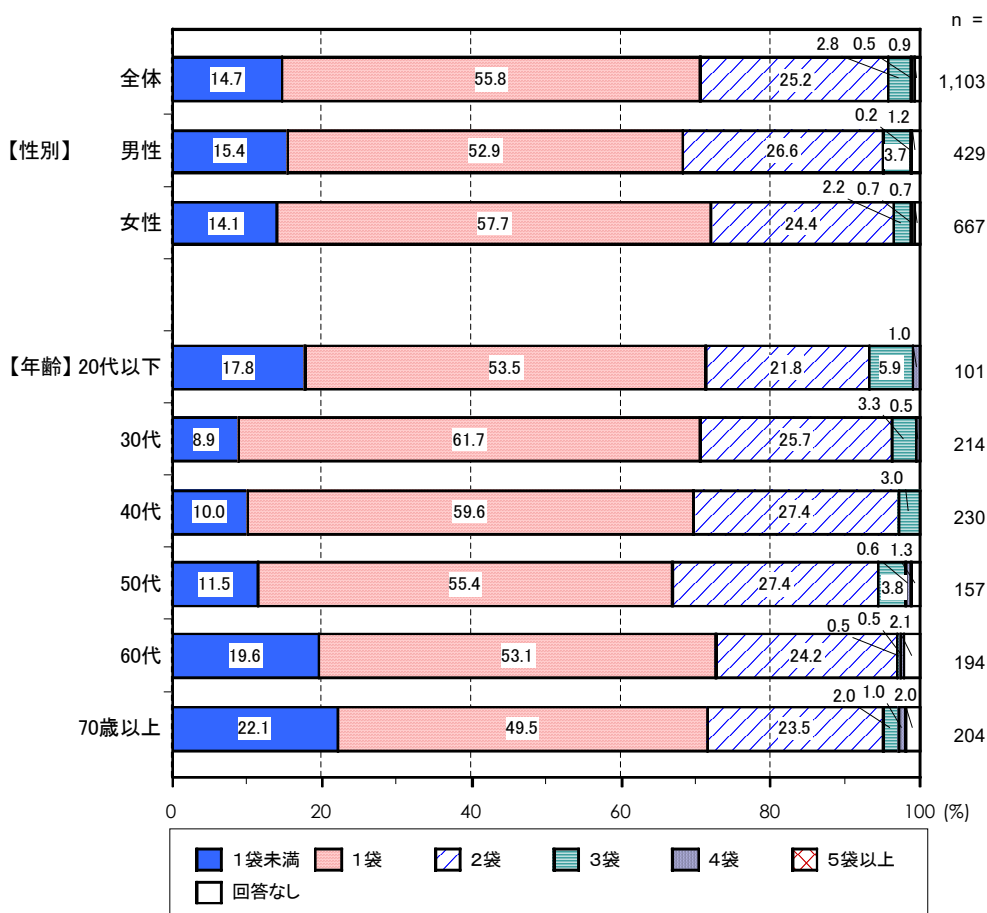
②性別

ごみは世帯で出していますが、女性で1袋が57.7%で男性よりもやや高くなっています。

③年齢別

30代以上では、年齢が上がるにしたがって(高齢の回答者いる世帯)ほど、「1袋未満」が高くなっています。

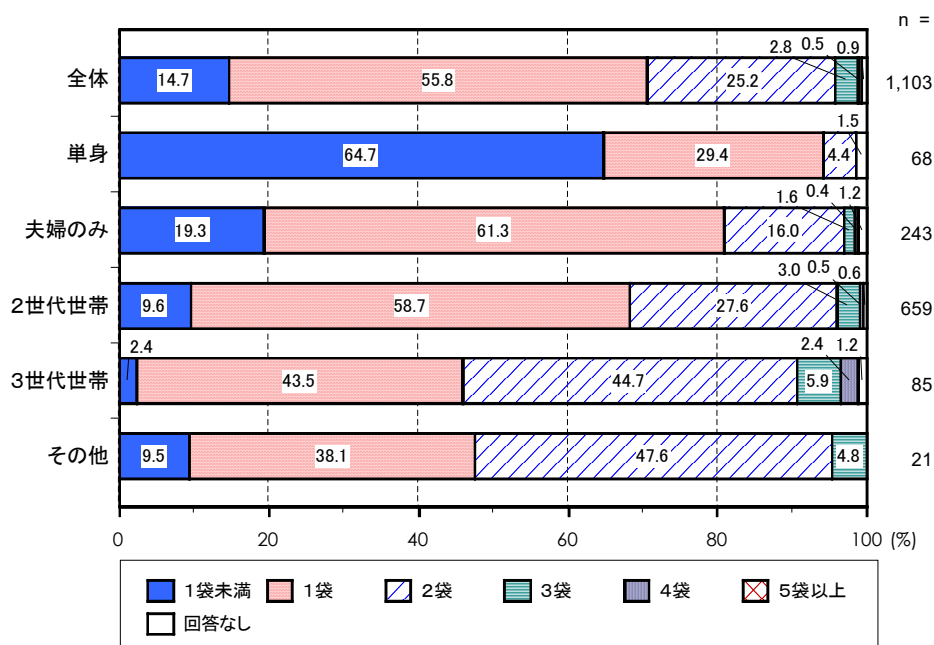
図表2-2-8 ごみ出し量(性・年齢別)



#### ④家族構成別

単身で「1袋未満」が64.7%と、圧倒的に高くなっています。夫婦のみでは「1袋」(61.3%)、3世代世帯では「2袋」(44.7%)が高くなっています(図表2-2-9)。

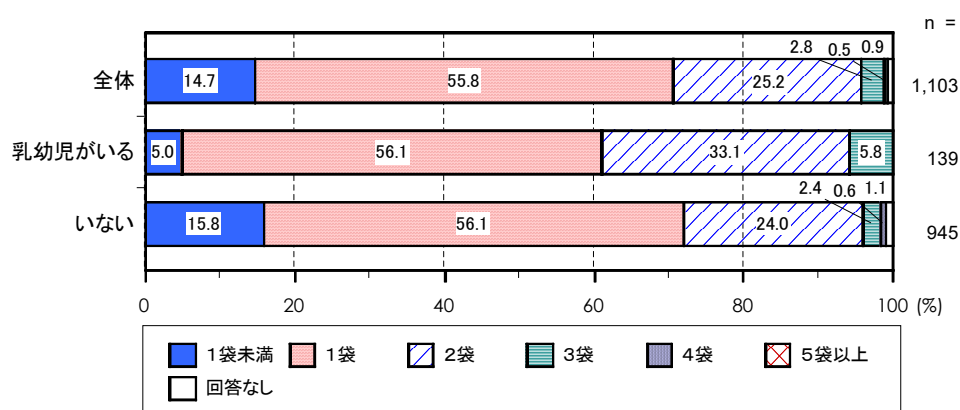
図表 2-2-9 ごみ出し量 (家族構成別)



#### ⑤乳幼児の有無別

乳幼児がいる場合は「2袋」が33.1%といない場合より高く、いない場合は「1袋未満」(15.8%)が高くなっており、いる場合の方が出す量が多いと言えます(図表2-2-10)。

図表 2-2-10 ごみ出し量 (乳幼児の有無別)



## 2-3 ごみの処理費の有料化について

### (1) ごみ処理の有料化についての考え方

問5 ごみ処理費の有料化について、今の段階でどのように考えますか。(〇は1つ)

#### ①回答者全体

「実施すべきである」が5.8%、「やむを得ない」が47.1%で、53%の回答者が有料化に理解を示しました。「実施すべきでない」は33.2%で、「どちらでもよい」は9.7%です(図表2-3-1)。

#### ②性別

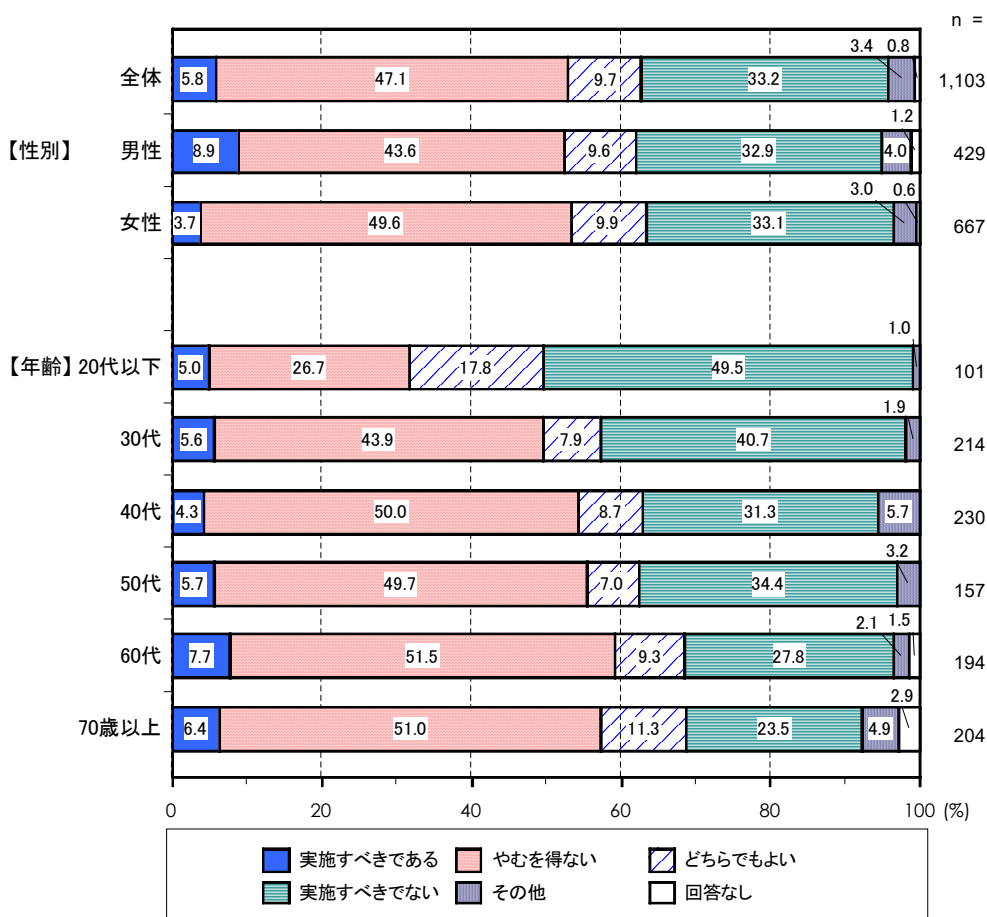
男性で「実施すべきである」(8.9%)が女性よりも高くなっていますが、「やむを得ない」とあわせると男女とも53%で差はありません。

#### ③年齢別

年齢が上がるにしたがって「実施すべきではない」が低くなっています。30代以下で「実施すべきではない」が他の年齢層よりも高く、20代以下では半数弱見られます。

20代以下から60代にかけて有料化への理解が高くなる傾向があり、30代以上では概ね半数を超えています。

図表 2-3-1 ごみ処理費有料化についての考え方(性・年齢別)

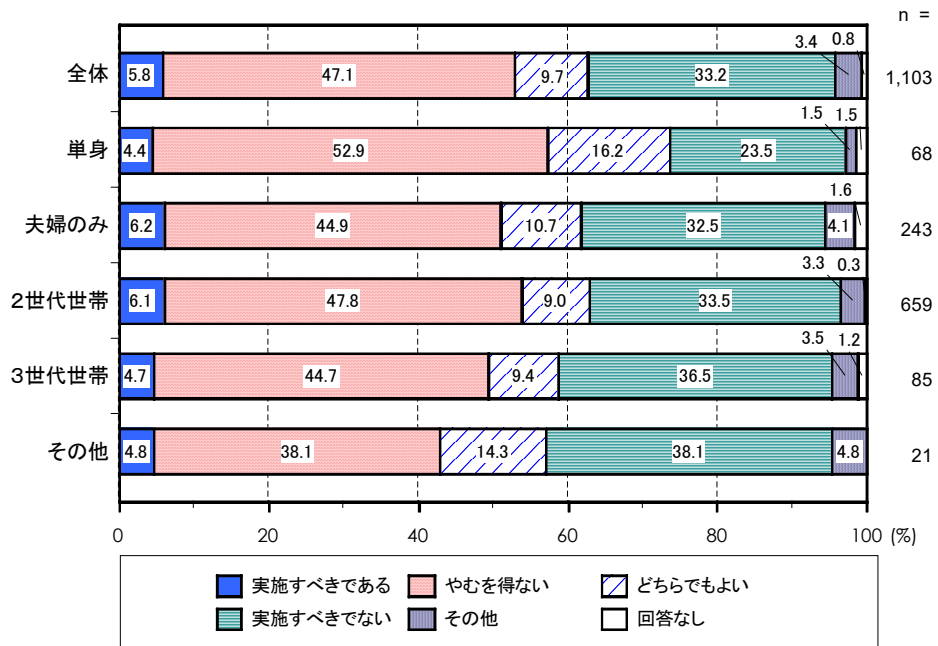


#### ④家族構成別

単身で実施の方向が57%と高く、「実施すべきでない」は23.5%と低くなっています（図表2-3-2）。

夫婦のみ、2世代世帯は回答者全体と同程度の状況ですが、ごみ出し量が多い3世代世帯では実施の方向が50%を切り、「実施すべきでない」（36.5%）が、他の家族構成よりも高くなっています。

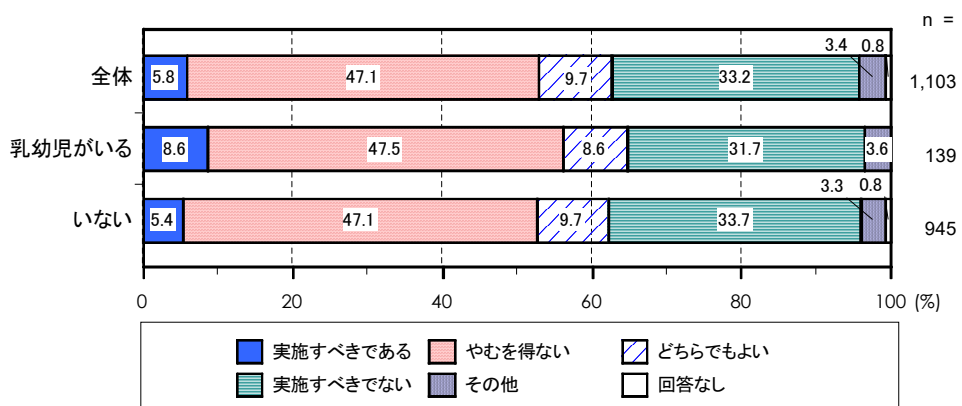
図表 2-3-2 ごみ処理費有料化についての考え方（家族構成別）



#### ⑤乳幼児の有無別

予想外ですが、ごみ出し量が多い乳幼児がいる場合で「実施すべきである」（8.6%）と実施の方向（56%）がいない場合よりもやや高くなっています（図表2-3-3）。

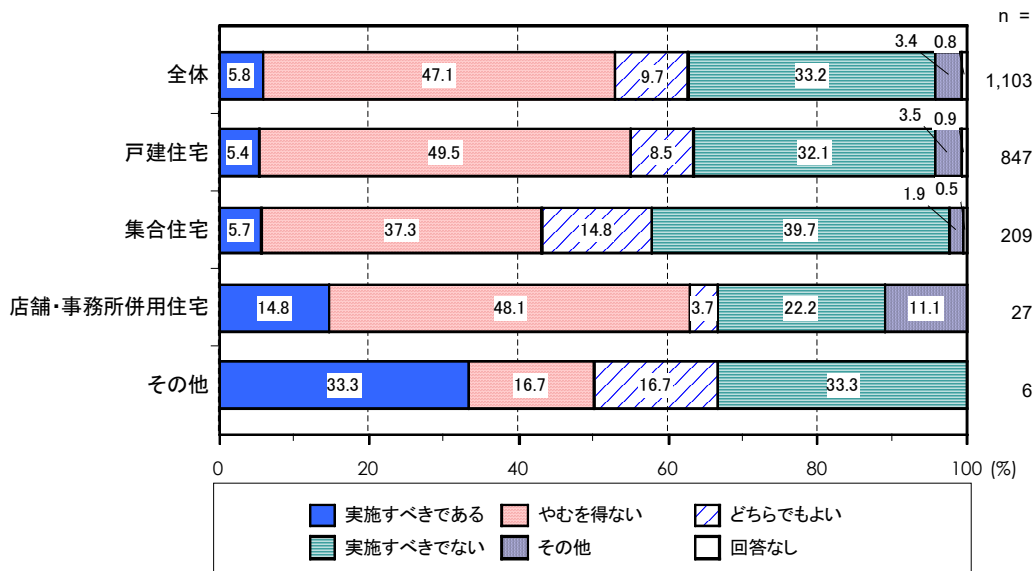
図表 2-3-3 ごみ処理費有料化についての考え方（乳幼児の有無別）



### ⑥住宅の種類別

集合住宅で「実施すべきでない」が39.7%と高く、実施の方向は43%にとどまっています（図表2-3-4）。

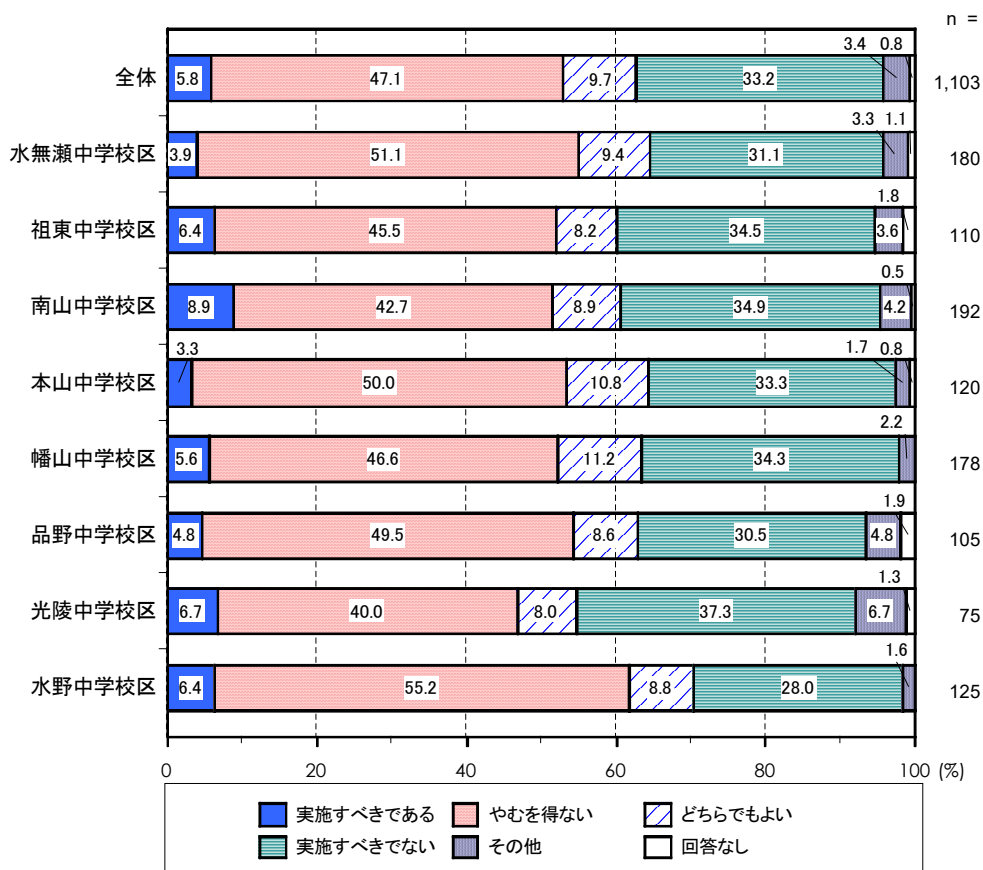
図表2-3-4 ごみ処理費有料化についての考え方（住宅の種類別）



### ⑦居住地区別

50代の回答が多い南山中学校区で「実施すべきである」が8.9%と他の地区よりも高く、同じく50代が多い水野中学校区で「やむを得ない」は55.2%で有料化への理解が60%を超えて高くなっています（図表2-3-5）。

図表2-3-5 ごみ処理費有料化についての考え方（居住地区別）

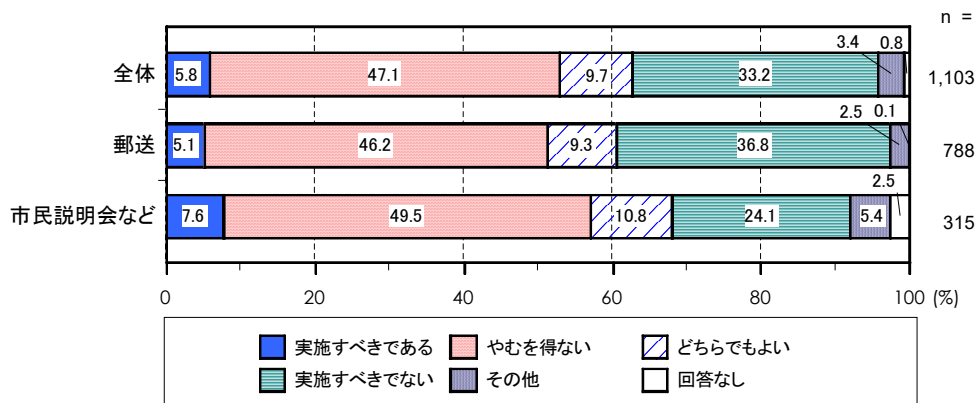




### ⑧アンケート配布方法別

市民説明会等への参加者で、「実施すべきである」が7.6%、「やむを得ない」が49.5%であり、郵送の回答者と比べると、市民説明会等への参加者の方が高い割合となっています（図表2-3-6）。

図表 2-3-6 ごみ処理費有料化についての考え方（アンケート配布方法別）



(2) 負担して良いと思う金額

問6 問5で「1. 実施すべきである」、「2. やむを得ない」、「3. どちらでもよい」を選択した方のみ、ご回答ください。

ごみ処理費用の一部または全てを負担していただくことになった場合、45ℓの「燃えるごみ袋1セット(10袋入り)あたり」どのぐらいの金額であれば、負担しても良いと思いますか。(〇は1つ)

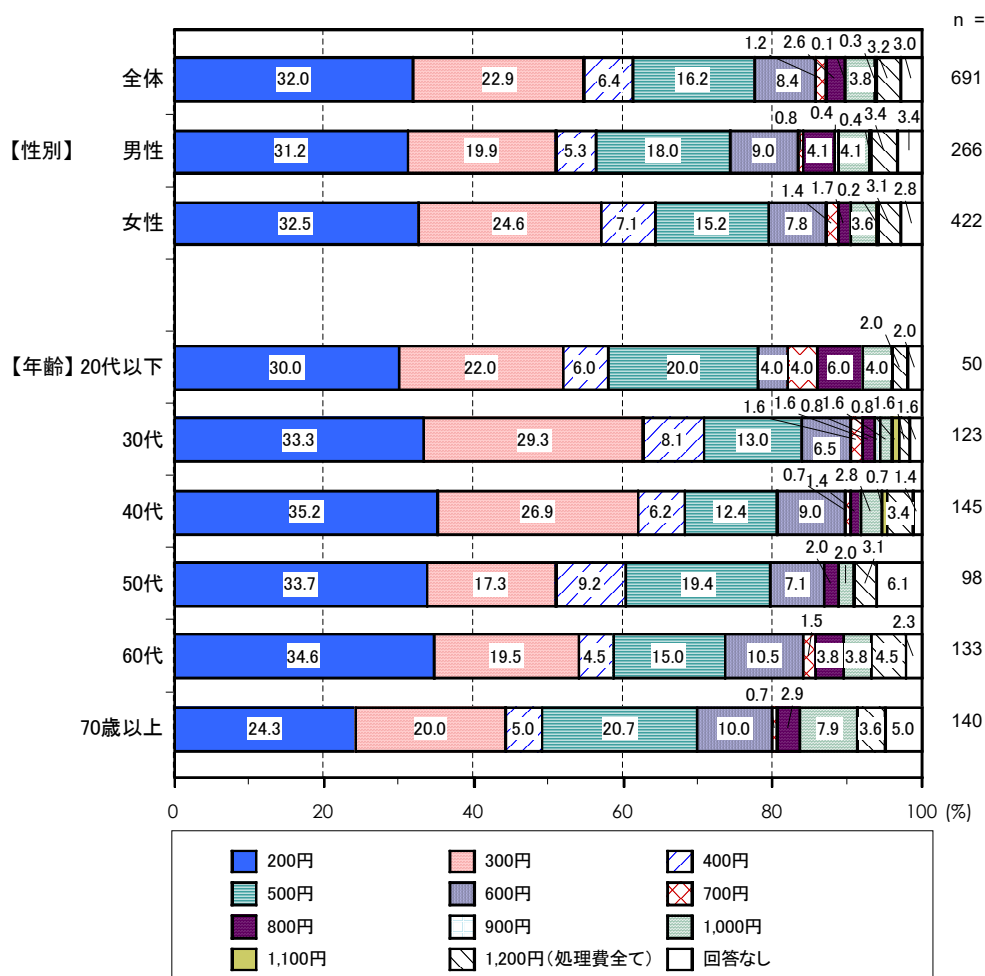
①回答者全体

「200円」が32.0%と最も多く、次いで「300円」が22.9%で、300円未満で55%となっています。「500円」が16.2%見られ、500円以下で78%ですが、600円以上も20%見られます(図表2-3-7)。

②年齢別

30代以下で300円未満が62%程度と高く、60代以上で600円以上が25%程度と高くなっています。

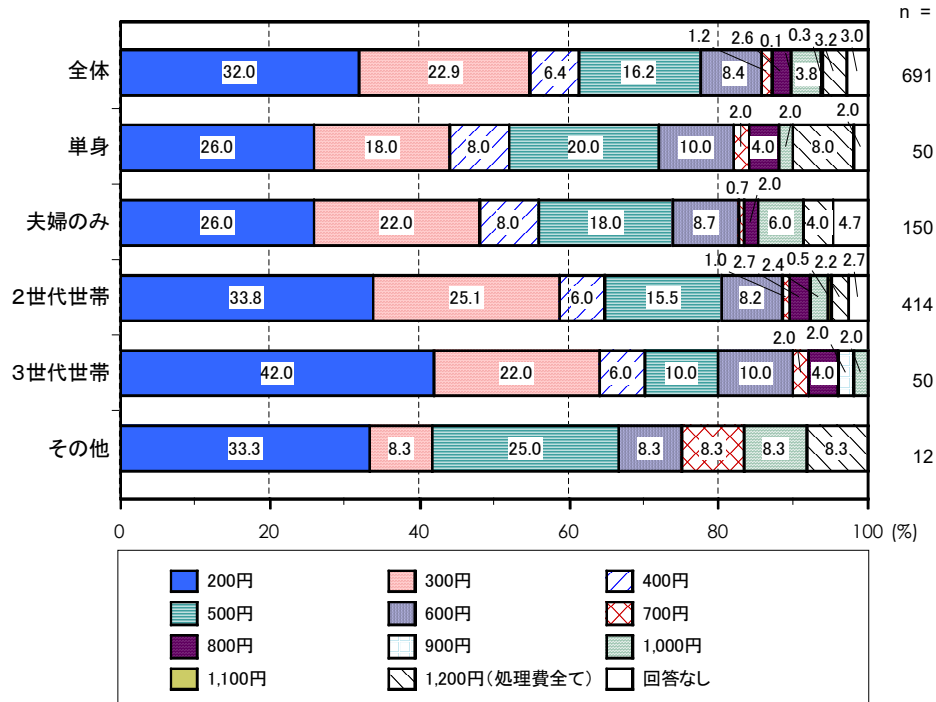
図表2-3-7 負担して良いと思う金額(性・年齢別)



### ③家族構成別

単身で600円以上が26.0%と高くなっています。ごみを出す量が多い2世代世帯と3世代世帯で300円未満(58%以上)が高く、特に3世代世帯では「200円」が42.0%に達しています(図表2-3-8)。

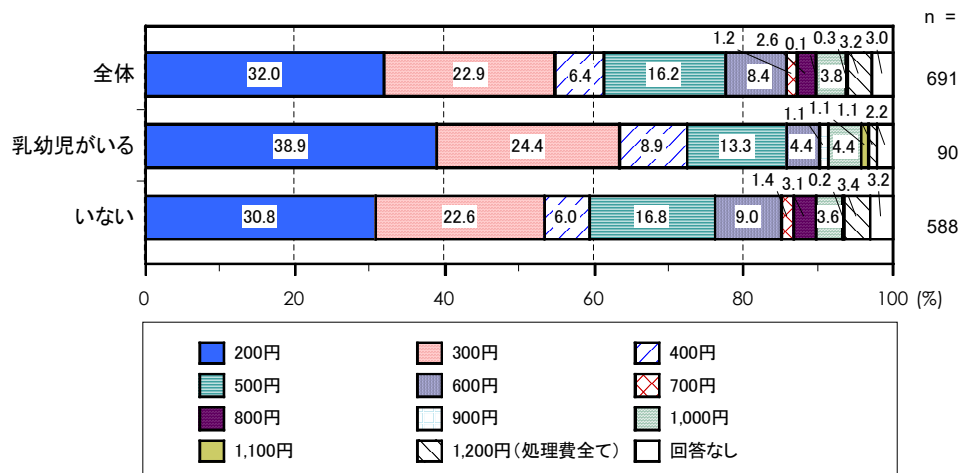
図表 2-3-8 負担して良いと思う金額(家族構成別)



### ④乳幼児の有無別

ごみ出し量が多い乳幼児がいる場合は、300円未満が63%と高く、そのほとんどが「200円」(38.9%)と回答しました。(図表2-3-9)。

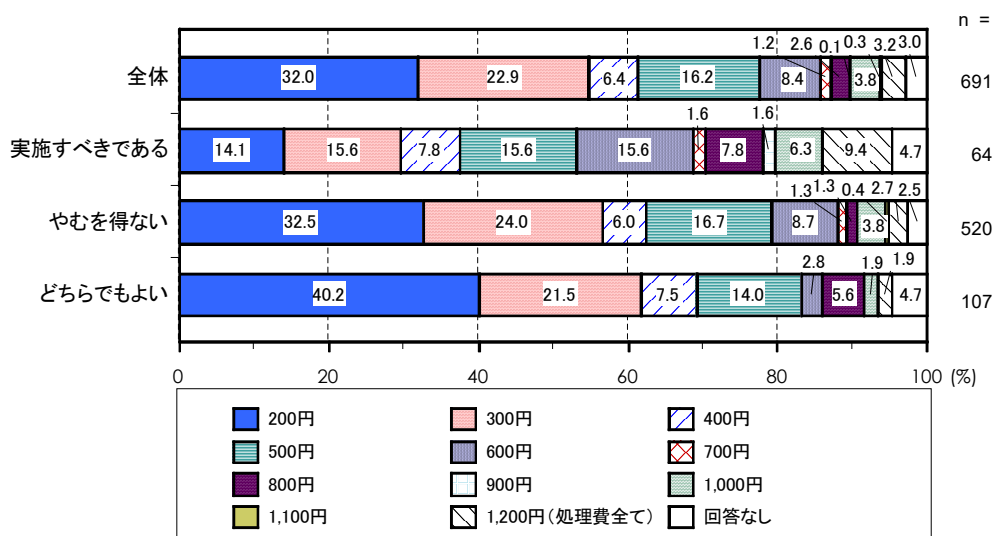
図表 2-3-9 負担して良いと思う金額(乳幼児の有無別)



⑤ごみ処理有料化についての考え方別

有料化の実施について賛同する程、負担金額を高く回答する傾向があり、有料化を実施すべきであるという回答者では 600 円以上が 40%を超え、「1,200 円（処理費全て）」も 9.4%見られます。有料化はどちらでもよいという回答者では、「200 円」が 40.2%に達しています（図表 2-3-10）。

図表 2-3-10 負担して良いと思う金額（ごみ処理有料化についての考え方別）



## ⑥平均金額

平均金額は回答者全体では411円となっています（図表2-3-11）。

70歳以上や単身世帯、460円以上と高く、特にごみ処理有料化を実施すべきであるという考え方の回答者で567円となっています。

30代、3世代世帯、乳幼児がいる場合、ごみ処理有料化はどちらでもよいで約370円と低くなっています。

図表2-3-11 負担して良いと思う平均金額（属性別、円）

	全体	411.2				
性別	男性	430.0	居住地区別	水無瀬中学校区	425.2	
	女性	399.8		祖東中学校区	403.1	
年齢別	20代以下	422.4		南山中学校区	462.8	
	30代	373.6		本山中学校区	371.1	
	40代	389.5		幡山中学校区	380.9	
	50代	393.5		品野中学校区	411.3	
	60代	426.2		光陵中学校区	469.2	
	70歳以上	464.7		水野中学校区	386.9	
家族構成別	単身（1人）	469.4				
	夫婦のみ（2人）	441.3		ごみ処理有料化についての考え方別	実施すべきである	567.2
	2世代世帯（親と子）	387.6	やむを得ない		401.8	
	3世代世帯	368.0	どちらでもよい		364.7	
	その他	508.3				
乳幼児の有無	乳幼児（0～3歳児）がいる	368.2				
	いない	417.4				

## 2-4 これからの取組みについて

### (1) 家庭でのごみの減量の取組み方

問7 ごみ処理費の有料化を実施することになった場合、あなたのご家庭ではごみの減量についてどのように取り組みますか。(〇は1つ)

#### ①回答者全体

「積極的に取り組む」が28.8%、「取り組む」が36.6%で、65%が減量に取り組むと回答しました。「あまり取り組まない」と「取り組まない」は1.5%とわずかであり、「今までと変わらない」は29.4%となっています(図表2-4-1)。

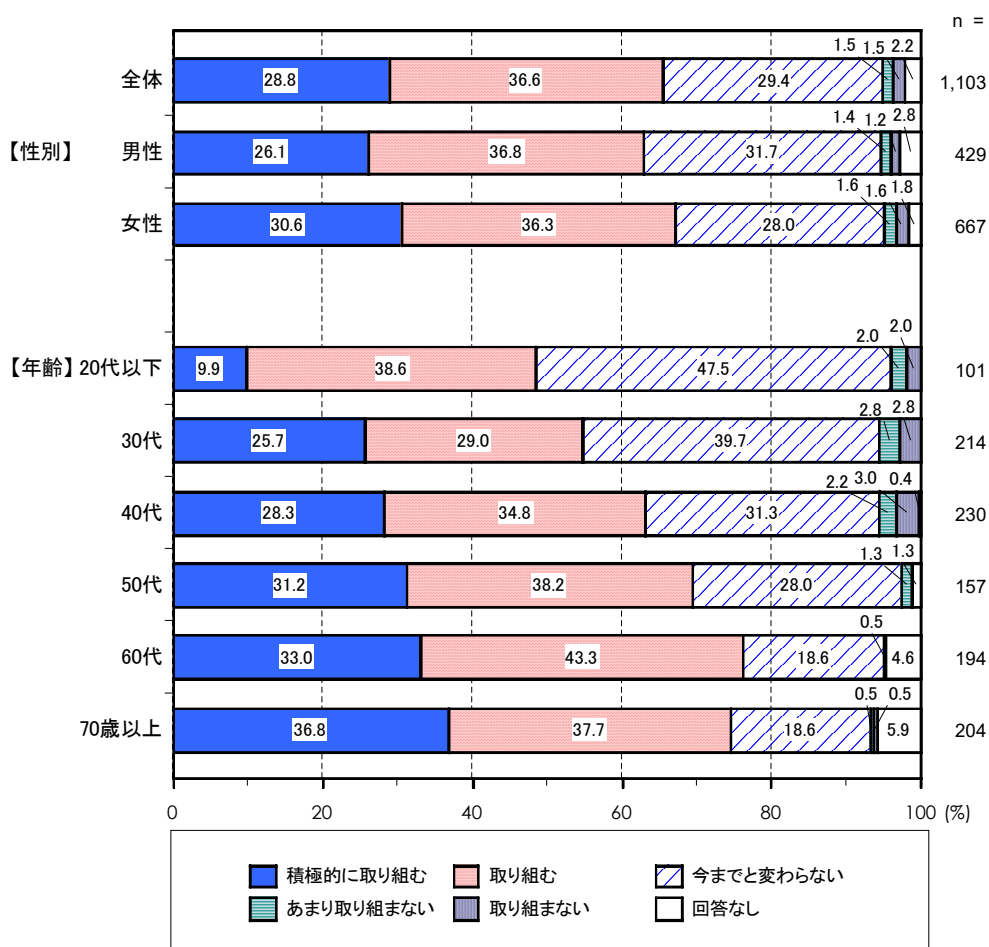
#### ②性別

女性で「積極的に取り組む」が30.6%で、男性よりも若干高くなっています。

#### ③年齢別

「積極的に取り組む」、「取り組む」とともに、年齢が上がるにしたがって高くなる傾向があります。20代以下では取り組むが50%を切って、年齢層の中で特に低くなっています。

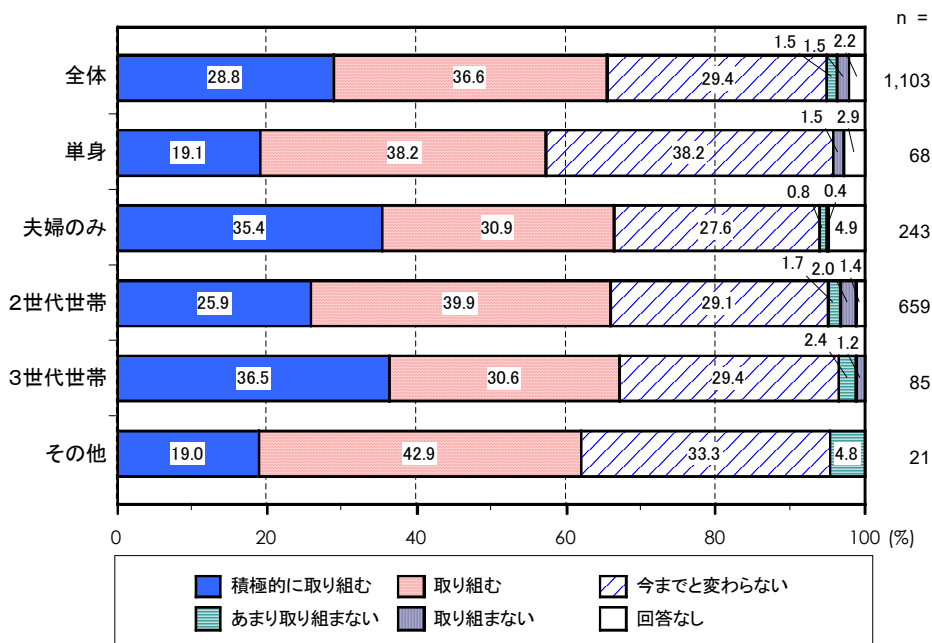
図表 2-4-1 家庭でのごみの減量の取組み方 (性・年齢別)



#### ④ 家族構成別

単身で「積極的に取り組む」、「取り組む」が併せて57.3%で、家族構成の中で最も低くなっています（図表 2-4-2）。

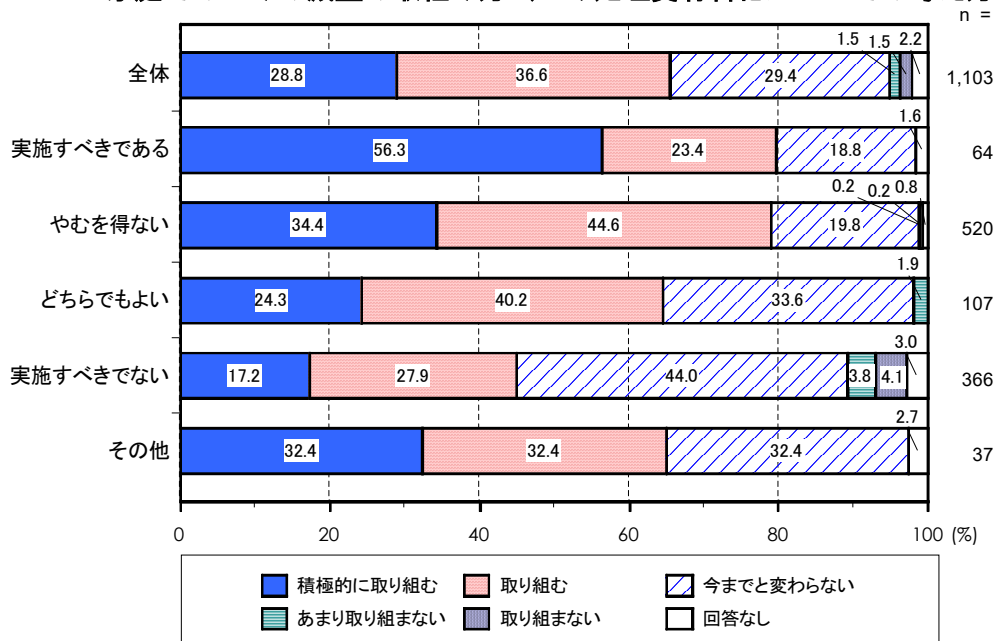
図表 2-4-2 家庭でのごみの減量の取組み方（家族構成別）



#### ⑤ ごみ処理費有料化についての考え別

有料化の実施について賛同する程、「積極的に取り組む」と「取り組む」が高くなる傾向があり、実施すべきではないという回答者では、45%にとどまっています（図表 2-4-3）。

図表 2-4-3 家庭でのごみの減量の取組み方（ごみ処理費有料化についての考え別）



## (2) 減量化とともに行うべき取組み

問8 仮に、家庭から出るごみの処理費の有料化を行う場合、「ごみの減量化」とともに、どのような取組みが重要であると考えますか。(2つまで〇)

## ①回答者全体

「資源物回収の推進」(41.4%)と「ご負担いただいた手数料の使い道の明確化」(37.6%)、「住民負担の公平化(多くごみを出す場合は、相応の負担)」(37.0%)に回答が集まっています(図表2-4-4)。

## ②性別

女性で「資源物回収の推進」(45.0%)と「ご負担いただいた手数料の使い道の明確化」(39.6%)が、男性よりもやや高くなっています。

## ③年齢別

30代以下で「ご負担いただいた手数料の使い道の明確化」(43%以上)と「住民負担の公平化」(40%以上)、さらに20代以下で「ごみ置場に関する助成の拡充」(25.7%)が、他の年齢層よりも高くなっています。

60代以上では「ごみに対する市民意識の啓発活動」(38%以上)、さらに70歳以上では「地域や市民参加による環境活動の充実」(12.7%)が、他の年齢層よりも高くなっています。

図表2-4-4 減量化とともに行うべき取組み(性・年齢別)(%)

	n (人)	住民負担 の公平化 (多くご みを出す 場合は、 相応の負 担)	資源物回 収の推進	ごみに対 する市民 意識の啓 発活動	地域や市 民参加に よる環境 活動の充 実	ご負担い ただいた 手数料の 使い道の 明確化	ごみ置場 に関する 助成の拡 充	環境にや さしい都 市として のイメー ジアップ	その他	回答なし
全体	1,103	37.0	41.4	25.4	6.5	37.6	19.4	3.4	3.4	3.0
男性	429	37.8	35.7	26.6	7.7	34.5	20.0	4.4	4.9	3.0
女性	667	36.6	45.0	24.4	5.8	39.6	19.0	2.8	2.4	3.0
回答なし	7	28.6	57.1	42.9	-	42.9	14.3	-	-	-
20代以下	101	42.6	33.7	14.9	2.0	54.5	25.7	4.0	2.0	1.0
30代	214	40.7	42.5	13.6	8.4	43.5	20.6	4.2	4.2	1.4
40代	230	32.6	50.0	17.8	2.2	43.9	20.0	3.5	3.5	2.6
50代	157	38.9	38.2	24.2	3.2	33.8	22.3	2.5	4.5	3.8
60代	194	33.0	42.3	40.2	8.2	34.5	13.4	3.1	3.1	2.6
70歳以上	204	37.3	36.8	38.2	12.7	22.1	17.2	3.4	2.5	5.9
回答なし	3	66.7	-	33.3	-	33.3	66.7	-	-	-



## ④家族構成別

単身では「住民負担の公平化」(48.5%)、「ご負担いただいた手数料の使い道の明確化」(44.1%)、夫婦のみでは「ごみに対する市民意識の啓発活動」(32.1%)、「資源物回収の推進」(48.2%)が、他の家族構成よりも高くなっています(図表2-4-5)。

図表2-4-5 減量化とともに行うべき取組み(家族構成別)

(%)

	n (人)	住民負担 の公平化 (多くご みを出す 場合は、 相応の負 担)	資源物回 収の推進	ごみに対 する市民 意識の啓 発活動	地域や市 民参加に よる環境 活動の充 実	ご負担い ただいた 手数料の 使い道の 明確化	ごみ置場 に関する 助成の拡 充	環境にや さしい都 市として のイメージ アップ	その他	回答なし
全体	1,103	37.0	41.4	25.4	6.5	37.6	19.4	3.4	3.4	3.0
単身(1人)	68	48.5	26.5	26.5	4.4	44.1	11.8	-	2.9	5.9
夫婦のみ(2人)	243	33.7	40.7	32.1	9.1	31.3	18.9	4.1	4.1	3.7
2世代世帯(親と子)	659	37.6	42.3	22.8	5.6	40.1	20.2	3.5	3.3	2.6
3世代世帯	85	35.3	48.2	23.5	8.2	35.3	17.6	2.4	3.5	2.4
その他	21	42.9	38.1	23.8	4.8	28.6	28.6	9.5	-	-
回答なし	27	22.2	44.4	33.3	7.4	33.3	22.2	3.7	-	3.7

## ⑤居住地区別

南山中学校区と水野中学校区で「住民負担の公平化」(45%以上)、南山中学校区と幡山中学校区で「ご負担いただいた手数料の使い道の明確化」(42%以上)が、他地区よりも高くなっています(図表2-4-6)。

品野中学校区で「資源物回収の推進」(51.4%)、祖東中学校区と光陵中学校区で「ごみに対する市民意識の啓発活動」(30%以上)、祖東中学校区と幡山中学校区で「ごみ置場に関する助成の拡充」(23%以上)、光陵中学校区では「環境にやさしい都市としてのイメージアップ」(6.7%)が、他地区よりも高くなっています。

図表2-4-6 減量化とともに行うべき取組み(居住地区別)

(%)

	n (人)	住民負担 の公平化 (多くご みを出す 場合は、 相応の負 担)	資源物回 収の推進	ごみに対 する市民 意識の啓 発活動	地域や市 民参加に よる環境 活動の充 実	ご負担い ただいた 手数料の 使い道の 明確化	ごみ置場 に関する 助成の拡 充	環境にや さしい都 市として のイメージ アップ	その他	回答なし
全体	1,103	37.0	41.4	25.4	6.5	37.6	19.4	3.4	3.4	3.0
水無瀬中学校区	180	32.8	43.9	27.8	6.7	35.0	20.0	2.2	3.3	3.9
祖東中学校区	110	35.5	38.2	30.9	9.1	33.6	23.6	3.6	0.9	2.7
南山中学校区	192	45.3	40.6	18.8	5.2	44.8	16.1	4.2	3.6	0.5
本山中学校区	120	39.2	45.0	25.8	7.5	35.8	20.8	3.3	2.5	0.8
幡山中学校区	178	28.1	41.6	22.5	5.6	42.1	25.8	2.2	5.1	3.4
品野中学校区	105	27.6	51.4	24.8	6.7	32.4	18.1	2.9	2.9	4.8
光陵中学校区	75	32.0	29.3	37.3	9.3	37.3	10.7	6.7	4.0	8.0
水野中学校区	125	53.6	36.8	26.4	5.6	34.4	13.6	4.0	3.2	3.2
回答なし	18	33.3	44.4	11.1	-	33.3	33.3	5.6	5.6	-

## ⑥ごみ処理費有料化についての考え方別

実施すべきであるとやむを得ないの回答者で「住民負担の公平化」(41%以上)が高く、特に実施すべきであるという回答者では57.8%となっています。また、実施すべきであるの回答者で「ごみに対する市民意識の啓発活動」(29.7%)が、やむを得ないで「資源物回収の推進」(44.8%)も、他の有料化意向の回答者より高くなっています(図表 2-4-7)。

実施すべきでない回答者では、「ご負担いただいた手数料の使い道の明確化」(46.2%)が高くなっています。

図表 2-4-7 減量化とともに行うべき取組み(ごみ処理費有料化についての考え方別)

(%)

	n (人)	住民負担 の公平化 (多くご みを出す 場合は、 相応の負 担)	資源物回 収の推進	ごみに対 する市民 意識の啓 発活動	地域や市 民参加に よる環境 活動の充 実	ご負担い ただいた 手数料の 使い道の 明確化	ごみ置場 に関する 助成の拡 充	環境にや さしい都 市として のイメー ジアップ	その他	回答なし
全体	1,103	37.0	41.4	25.4	6.5	37.6	19.4	3.4	3.4	3.0
実施すべきである	64	57.8	31.3	29.7	4.7	31.3	20.3	4.7	3.1	3.1
やむを得ない	520	41.2	44.8	27.1	7.7	32.7	20.2	2.3	3.1	1.9
どちらでもよい	107	32.7	43.9	24.3	7.5	39.3	19.6	2.8	2.8	2.8
実施すべきでない	366	29.2	38.0	20.5	4.6	46.2	19.9	4.6	3.8	4.1
その他	37	37.8	35.1	35.1	8.1	35.1	5.4	8.1	5.4	5.4
回答なし	9	11.1	55.6	66.7	11.1	11.1	-	-	-	11.1

## 2-5 自由記入意見

問9 ごみの処理全般やごみ処理費の有料化についてご意見がありましたら、自由に記入してください

自由記入意見は 495 名から 581 件の意見をいただきました（図表 2-5-1）。

やはり、ごみ処理有料化についての直接的な意見が多く、反対意見や有料化しない努力をすること、金額について、有料化にした場合の懸念についての意見が目立っています。

※個別の意見については、参考資料に掲載しています。

図表 2-5-1 自由記入意見の分類別件数

分類	件数
<b>ごみ処理費の有料化について</b>	<b>349</b>
賛成	28
仕方ない	12
反対	60
有料化しない努力をする	71
金額	60
有料化にした場合の懸念	72
市民への説明、情報提供	35
その他	11
<b>ごみ出しマナーや散乱ごみについて</b>	<b>32</b>
<b>ごみの減量について</b>	<b>33</b>
<b>ごみの分別について</b>	<b>27</b>
<b>生ごみの減量対策</b>	<b>8</b>
<b>資源分別について</b>	<b>34</b>
<b>回収、集積場等について</b>	<b>22</b>
<b>不燃・粗大ごみ予約戸別収集について</b>	<b>2</b>
<b>粗大ごみの手数料について</b>	<b>2</b>
<b>資源リサイクルセンター、エコプラザについて</b>	<b>11</b>
<b>意識づけ、教育</b>	<b>31</b>
<b>指定袋について</b>	<b>21</b>
<b>その他</b>	<b>9</b>
計	<b>581</b>

(注) ごみ処理基本計画策定時のアンケートの分類項目を参考として、ごみの有料化についての意見は細分している。

## 2-6 まとめ

### (1) ごみ問題についての関心と有料化について

#### ①ごみ問題への関心

回答者全体では、80%を超える回答者がごみ問題に関心があると回答しており、非常に高くなっています。

一方、属性別にみると、年齢が上がるにしたがって「とても関心がある」が高くなる傾向があるものの、特に20代以下では50%を超える回答者は関心がなく、若い年齢層への啓発が課題です。

また、家族構成ではごみを出す量が多い3世代世帯、さらに住宅の種類別では集合住宅居住者で「関心がない」が相対的に高く、これらの層への啓発も課題です。

ごみの有料化についての考え方別では、有料化を実施すべきであるという回答者では「とても関心がある」が高く、有料化に理解がある回答者がごみ問題への関心を強く持っています。一方、実施すべきではないという回答者では「関心がない」が相対的に高く、ごみ問題への関心を高めながら有料化について市民の理解を得ることが重要であるとうかがえます。

#### ②ごみ処理費の有料化についての考え方

回答者全体では、ごみ処理費の有料化について、理解を示した人が50%を超えていますが、年齢別では30代以下で、家族構成ではごみ出し量が多い3世代世帯で、さらに住宅の種類別には集合住宅居住者で「実施すべきではない」が相対的に高くなっています。集合住宅居住者は、集積場へ運ぶ手間を負担と感じていたり、地域とのつながりが希薄であったりするため、市のごみ問題が理解されていないことが原因と思われます。

このように、ごみ問題に対する関心が低い層で、有料化の導入について否定的な割合が高くなっており、まずはごみ減量化についての理解を得る必要があると考えられます。

### (2) まとめの考察

#### ①有料化について半数以上の市民が理解を示している

ごみ処理費の有料化に対しては、回答者全体の過半数が導入に対する理解を示し、また導入時には7割が減量に取り組むと回答しました。また、有料化に理解を示した回答者はごみ問題への関心が高く、日常生活でもごみに対する意識が高い人だと思われます。

有料化した場合のごみ減量の取組みについても、有料化に理解があるほど取組みを期待することができます。このため、今後、有料化を導入することで、積極的にごみ減量に取り組む人が増え、減量効果の増大につながるということが十分に期待できます。

なお、今回の調査は、76.8%が戸建住宅居住者であるという結果となりました。このことを考慮すると、本市に比較的長く居住する人の意見を抽出できたと考えられま

す。

## ②ごみ問題の「啓発」が課題である

一方で、20代、30代の若い世代では、ごみ問題への関心が年齢層の中でも低く、また、有料化の導入に否定的な意見が目立ちました。その理由としては、ごみ問題への関心が低いことや、乳幼児がいておむつの削減が難しいことにより、ごみ減量へ積極的に取り組むことができない理由があることが考えられます。

しかし、ごみ減量が減り止まっているなど、本市でも有料化を検討せざるを得ない状況もあります。市民説明会等への参加者と郵送の回答者では、市民説明会等への参加者の方が、有料化への理解が高いという結果となっています。このことから、市民への丁寧な説明により理解を求めていくことが必要となります。

今後、いかに若い世代のごみ問題に対する意識を啓発し、有料化という手段についても理解を深めることができるかが重要です。

## ③有料化した場合の懸念に対する当面の対策と制度設計での配慮

有料化を導入した場合の懸念事項として、不法投棄の増加やどうしても減らせないごみ（乳幼児のおむつなど）への対応など、生活に対する不安が散見されました。

このため、有料化を導入する際は、ごみについての啓発をより一層充実させ、ミックスペーパーの回収や食品ロス削減などの当面のごみ減量化の方策を進めるとともに、市民全体の意識を高めることが重要となります。

また、制度設計時には、ライフステージ（生活の段階）に合わせた配慮も必要であると考えられます。

有料化導入後も、ごみ減量化のための多様な施策や、広く市民生活に資するような手数料収入の活用方策の推進などにより透明性を確保して理解と協力を得ることを検討する必要があります。